

幼兒の教育

第五十卷 第十二號

日本幼稚園協會



xaz4

12

★ キンダーブックの愛読者へお薦めする ★

トツパンの愛児えほん

新発賣品

かわいい愛児のために

安く丈夫で美しい

愛児えほんを

のりもの

☆九月中旬刊☆
村上松次郎画

内田武夫画

かわいい
どうぶつ
——以下續刊



各冊B5特判12頁
定 價 50 円

●御註文はフレーベル館

又は最寄保育館へ

株式會社 トツパン 東京都中央区
日本橋茅場町1の20

(表紙 脇田 和)

第五十卷 幼児の教育 第十二號

次~~~~~

目~~~~~

幼児の教育半世紀の辞	倉橋惣三	(2)
幼児の教育相談の方法	村山貞雄	(5)
何を話すか	上沢謙一	(15)
アメリカ童話から(111)	松原至大	(26)
沖縄の印象	牛島義友	(30)
たのしいおじいと帖について	及川ふみ	(37)
子供讀歌(16)	倉橋惣三	(39)
(講話)幼児の健康保育(14)	平井信義	(43)
幼児の教育第五〇巻総目録		(49)
会か		(52)



幼兒の教育半世紀の辭

本誌主幹 倉橋惣

三

日本の幼稚園協会が、その前名フレーベル会として、創設せられたのは明治二十九年（一八九六年）、「幼兒の教育」が前名「婦人と子ども」として、創刊せられたのは一九〇〇年代の初頭、それを第一巻第一号として、爾來この第五十巻十二月号を以て、半世紀に充つる。

五十年は、一つの小さな月刊雑誌として、相当の継続といつてよからうが、その年月の内容を顧みれば、なんと大いなる半世紀である。その間の幾つかの主要事件を拾い挙げて見ただけでも、その世界史的意義の重かつたことに今更に驚かされるのである。

一九〇二年 日英同盟
一九〇四—五年 日露戦争
一九一〇年 日韓合併

一九一二年	中華民国
一九一四年	第一次世界大戦
一九一九年	ベルサイユ条約
一九二〇年	国際聯盟
一九二一年	ワシントン會議
一九二九年	世界經濟恐慌
一九三一年	満洲事変
一九三二年	上海事變
一九三三年	ナチス政權
一九三七年	日華事變
一九三九年	第二次世界大戦
一九四一年	太平洋戦争
一九四三年	イタリヤ降伏

一九四五年	ドイツ降伏
一九四六年	日本降伏
一九四七年	フィリッピン独立
一九四八年	印度独立
一九四九年	ビルマ独立
一九五〇年	中華人民共和国
一九五一年	インドネシア連邦共和国独立
一九五〇年	中ソ友好同盟
一九五〇年	朝鮮事変
一九五一年	サンフランシスコ講和会議

われわれは、これらの内容をもつ半世紀の世界史的意義をこゝに詳かには語り得ないが、一九〇〇年以来、日本が遭遇し直面し経過した世界の変化は、實に容易ならぬものであつた。そして、こゝで此の大きい視野から、わが国の幼児教育の進展に焦点をうつして見るとき、如何なる成育をして來たのであらうか。又、この半世紀をつゞけて、日本の幼児教育を育てることを志とし、任務として自任して來た本誌――こういう言葉を使うのは聊か大言に過ぎるが――今半世紀記念の年を了るに當つて、その点に大言たることを恥じずられない。

顧みて我国の幼稚園の創めは、明治九年（一八七六年）であるから、本誌の創刊は、それにおくれること四半世紀である。この間こそは、日本の幼児教育の初期といふ訳である。が、一九〇〇年（明治三十三年）には、幼稚園の數官公立一七九、私立六一、合計二四〇を数えている。数としては未だ少なかつたが、その熱意は大に盛んなものであつた。それから、公立も次第に多くなつたが、増加の比は、明治四十二年頃からの私立の増加によつて、総数が大に加わり来り、現在の国公立八一一、私立九七六、合計一、七八七になつて居る。（昭和二十四年四月現在）

これに保育所の、公立五七六、私立一、七七八、合計二、三五三（昭和二四年一月現在）併せ数えれば、保育施設総数は四、一四〇となる。そして、その教職員数は一五、五七九を数えるが、試みに本誌の月々の発行部数を此の数字に割当をすれば、教職員諸氏一人一冊は未だしと雖も、施設数では大体一施設一部は充分余裕ある数字である。尤も、これはたゞ数字上の計算であつて、實際は如何なる割合になつてゐるか、またその実数にしても如何なる意味に解釈すべきものかは明かでない。たゞ、本誌が保育者諸氏の大多数の愛読を得て、ことだけは、自ら考えて喜びと感謝とを表することを許されれるであらうか。われらの微力を省みながらも、激励を感じずいられないのである。

筆の序に、私自身と本誌との結びつきをすこし回顧する。私が『婦人と子ども』時代からの本誌との縁は、明治四十三年頃からのことで、それから、いつの間にか四十年になつてゐる。半世紀の五分の四と思えば、随分長いことである。一年

十二冊として四百八十冊に何かしら書いて来たことになる。書くと、本誌のためのようであるが、実は、本誌を草紙として、保育について勉強させて貰つた訳である。勉強といえば聞こえもいゝが、その間、読者諸氏の目を煩わし、お邪魔をしつづけたことは恐縮にたえない。よくもまあ、さうす

うしくと思うと、われながら呆れるが、よくもまあ引づいて、或は時々でも、読んで下さつたことを思うと読者に感謝いたえな。よくもまあ、たねがあるものだとと思うが、たねの価値如何は別として、筆者としては、その日々、年々、にいつも新しい感興と切実さなしに筆をとつたことは一度もない、自分に向つていい得る。従つて読者には価値はあるなくとも、筆者自身の保育の心は此の雑誌で養いつづけられたのであつた。自分勝手な言い草だと笑わないで下さ。い。たゞ密に恐れることは、如何に好意ある誌友にも退屈されることはありはしないかということ、殊に頭が古くなり、ひからびていはしないかということであるが、もう暫くは編輯をつづけさせて貰いたいと希望している。保育について語るには筆者の呼吸だから。但しそれも、まさか、もう半世紀とは望んでいないが。

それにしても、本誌に存在の価値をつづけさせたのは、誌友諸君、全保育界諸君の貴重なる毎年の寄稿である。本誌の半世紀を飾るものありとすれば、偏方にそれ多くページである。これは筆の序ではなく、真に心からの、半世紀の

感謝である。後更に半世紀、来世紀の御支援を希うて已まない。これを以て、長しともし、短しとすべき、わが『幼稚園の教育』半世紀の辞とする。

お茶の水女子大学附属幼稚園試案 幼児指導要録記入の手引

A5判五二頁定価三五円十八円

幼児指導要録の記入もいよいよ昭和二十六年度から始められることになりました。各園それぞれの立場に於て御研究がなされていることと思われます。ここにお茶の水女子大学附属幼稚園の試案として「幼児指導要録記入の手引」が出されました。幼児の生活の実際と評価の尺度について客観的な正しい観察の手引として一つの指針となるものであります。幼稚園の諸先生方の学年末の記入に際して役立つものと信ぜられます。

東京都千代田区神田神保町二ノ四
發行所 株式会社 フレーべル館

振替東京 一九六四〇番



幼児の教育相談の方法

愛育研究所教養相談員

村山貞雄

一、序

幼児保育にかんする問題を解決する方法を、たゞねられ、これにたいして解決策を与えることを、幼児の教育相談といふ。幼児の教育相談はまた幼児の教養相談といふこともあら。

幼児の教育相談は、その名称は相談であつても、内容は純然とした指導である。すなわち指導を、指導の効果を一そくあげるために、相談的な態度でおこなうものであるから、相談といふ名称に昇えて、相談者が自分の能力が少しがらいい低かつたり、勉強をなまけてもよいといふような考をおこしてはならない。

幼児の教養相談は、(一)幼稚園・保育所の教師が父兄を指導する場合と、(二)相談所の相談員が幼稚園・保育所の教師

を指導する場合と、(三)相談所の相談員が父兄を指導する場合があるが、狭義には後の二つの場合を指し、特に多いのは第三の場合である。

以下、第三の場合を中心にして、幼稚園の先生が、問題のある幼児で自分の手に負えぬ者を教育相談所に相談を受けにゆかせる場合の参考になり、且つ、幼稚園の先生が、同時に高度の教育相談者として活動するための参考になると思われることを述べよう。

二、教育相談の体制

教育相談の体制として人的要件と物的要件があげられる。

A 人的要件

人的要件として、相談者と検査者が必要である。

相談者(相談員ともいふ)は、教育相談の結果にたいして

を責任を持つものであり、検査結果や、き、とり、その他の資料全綜合して、問題児の同道者に適当な指導をあたえることを任務とする。故に、教育相談全般について事務その他の最高責任をおびる教育相談所長又は教育相談主任は、相談者の一人か、相談者の資格のある者をもつてあることが望ましい。相談者は検査者に適当な検査を指示しておこなわせ、自ら検査をおこなうことは、きわめて少いが、検査結果をいかするために検査結果の利用法をはじめ、検査の内容、技術、長短等についても十分な知識を持つておらなければならない。

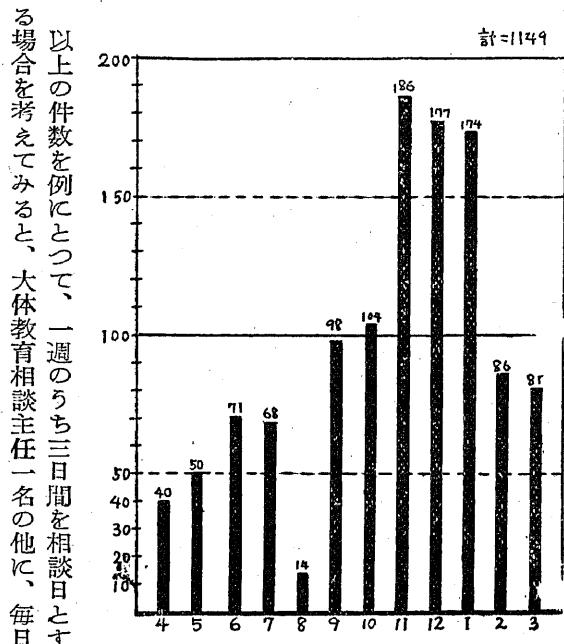
検査者（テスターともいう）は、問題児の相談に必要な検査を施行する者であり、知能検査をはじめ種々のテストに熟練していることが必要である。幼稚園の先生が児童の教育相談を自らおこなう場合は、相談者としての資格と同時に検査者としての資格にも長じるように努力するのがよい。

教育相談には、以上述べた不可欠要員としての相談者と検査者の他に、カルテ記入者や教育相談主任を設けておくことが望ましい。

カルテ記入者は、教育相談票（カルテともいう）の記入をおこなうものであり、受付が兼ねることもある。教育相談事務・一般事務その他相談にかかる研究等について責任をもつて統轄し、企画や実際の教育相談事業を主宰するものである。カルテの保存の責任も教育相談主任にある。

これらの人員の員数は充実させておくことが必要であるが、教育相談の件数は月によつて相当の相異を示しているから、それに応じてあらかじめ経済的な配置を考慮することができる。愛育研究所の例を示すと次の表のように、相談件数にかなりの増減がみられ、十一月から一月にかけては、員数の充実が特に必要であることがわかる。

愛育研究所における月別相談件数（昭和二十五年度）



以上の件数を例にとって、一週のうち三日間を相談日とする場合を考えてみると、大体教育相談主任一名の他に、毎日

教育相談者一名～二名、検査者二名～四名、カルテ記入者一名をあてるのが適当である。

B 物的要件

次に、物的要件としては、施設として、相談室・検査室・カルテ記入室が必要であり、道具として、検査用具・検査机・椅子及びカルテ保存棚等が必要である。

相談室は明るい感じのする室がよく、壁の色彩や掛額などについて考慮をはらうことが必要である。又椅子その他の備品についても同道者の信頼をいちじるしくおとさない程度のものをおくことが望ましい。床面積は八一〇平方米が適当である。

検査室は、検査用具をしまう場所を考え、周囲の騒音が入らないよう気をつけ、検査用の低い机と椅子が必要である。なお検査を一方的に觀察できる觀察室を附設すれば理想的である。

検査室の数は教育相談所の規模によつて異なるが、最小限二つあることが望ましく、床面積は一〇平方メートルが適当である。もしできれば、検査中にやむを得ず入室を希望する者や用件者がノックでなくしてそのことを室内にいる者に告げられるように、呼鈴を押せば豆電気がつくようにしておくといい。

なお検査道具については、後に述べよう。

三、教育相談の実際

教育相談の方法は、すでに臨床技術が非常に発達している医療の方面に学ぶところが多い。又教育相談が実際に発達しているアメリカ合衆国の実際及び文献が参考になる。

教育相談をする時刻は、まち／＼であるが、大体九時頃から受けつけて午前中で受付をしめきるところが多い。これは検査と相談の時間を併せてると一人につき六十分から一〇〇分ぐらい（平均八十分ぐらい）かかるので、午後までだら／＼受けつけるのをきらうためである。

相談の順序は、受付を経て、まずカルテ記入があこなわれる。カルテ記入は、相談効果をあげるために今後一そろ重視せられるようになるべきものであるが、現在は一般に軽くあつかわれており、全くおこなわれないところもある。カルテ記入の内容として、次のようなものを含ませるのが比較的有効である。

- 一、主訴
- 二、児童の氏名・生年月日及び在籍幼稚園名（又は保育所名）並びに保育年数
- 三、同道者の氏名及び続柄
- 四、児童の父兄の現住所（通信できる場所）
- 五、両親の名・実養繼の別・年齢・職業・教育程度・特殊事情

(たとえば大飲酒家・別居等)

六、家庭の状況

同胞の順位・性・年齢・特性・同居者の関係・性・年齢
その他の特殊事項及び家庭環境

七、家庭及び家の特殊事項

八、本人の成長史

出生状態・健康状態・既往症その他

九、現在変わった事項

疾病・癖その他

カルテの形式としては次のようなものが比較的便利である。このうち、幼児氏名で読み方の難しいものや誤りやすいものは必ずふりがなをつけ、保護者住所は、今後連絡できる保護者の住所を記入し、その保護者が同道者と異なる場合は氏名を記入しなければならない。又診断では知能指数(I.Q.)の場合はそのまま、知能偏差値(S.S.)の場合は括弧をして数値を記入するのがよい。

以上の内容について、教育相談票に記入してゆくのであるが、カルテ記入者は、相談者又は検査者が兼ねてもかまわないし、特にカルテ記入者を設けてもよい。カルテ記入者を相談者が兼ねている場合や、熟練したカルテ記入者の場合は、主訴によつて記入を適当に増減することが可能であるが、未熟な場合は、教育相談票の全記入項目にわたつて一應書きとすることが必要である。

充実した教育相談所で且つカルテ記入者が権威のある場合は、実施するテストの内容と相談者の氏名がここで決められる。しかし、わが国の現状では、幼児用のテストの数も少いし、このようなことをおこなう所はほとんどない。しかし主訴のいかんによつて、適当なテストがとり出され、これを施行できるようになることは私達の理想である。一般にいかなる主訴にも知能検査は必要である。

カルテ記入が済むと、検査者によつて、相談に必要な検査がおこなわれる。検査の内容は、知能検査はじめ、性格検査、生活能力検査、就学適性検査、興味検査等がある。

検査者は、まず検査に熟達することが必要であり、次いで幼児の扱いになれることが重要である。すなわち検査の結果が主観や施行法の誤りによつてゆがめられないよう注意し、できるだけ検査不能がないように努力しなければならない。たとえば先生が検査するという態度ではなくてお姉ちゃんとこれから少し遊びましょうといふ態度をとるごときである。検査不能をなくすることは幼児検査の非常に難しい点であり、この点で幼児の検査者は他の時期の検査者よりも練習を要する。殊に教育相談に来る幼児は何らかの点で問題のある幼児であるから、この種の技術がますく必要になる。なお検査の不能を防ぐためにやむをえない場合、同道者を検査室に入れるることは差し支えない。

検査が済むと、測定結果を、相談者のわかるようにカルテ

教育相談票

No.	
相談者	
検査者	

幼兒氏名		男	相談日	昭和 年 月 日	満 才 月				
		女	出生日	昭和 年 月 日					
同道者氏名		続柄	保護者 住 所						
主 訴									
家 庭	なまえ	年令	関係	職業	教育程度	特記事項			
	父	才	実養繼		卒中退				
	母	才	実養繼		卒中退				
	同胞	性	年令	特記事項	同居者 近隣状態 家庭	関係	性	年令	特記事項
	1		才						
	2		才						
	3		才			週 囲			
	4		才			特記事項			
	5		才			特記事項			
	6		才						
	成 長 期	出生状態	熟産	早産	月遲産	正常	難産	鉗子	
		栄養	母乳	人工	混合	生齒	月		
離乳期			才	月	断乳期	才	月		
始歩期			才	月	始語期	才	月		
既応症									
現 在	身体								
	精神								
	性格		習癖						
	保育	幼稚園 保育所	私立	公立	才月より	現在 才月	年 月 間		
	その他								

き
き
と
り

診
断

I.Q (S.S.)		その他の test 結果
attitude of parents		

指
導
内
容

1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

經
過

に記入してこれを相談室にまわすのであるが、検査中に気がいた注意されるべき点を、メモとして書き加えておくと相談者が非常に助かることがある。又検査者は、ある程度の術語について下イツ語又は英語でカルテに記入できると有効である。たとえば、知能検査施行中に、幼児が家庭でこの種の訓練を受けた形跡があるとふう場合に *test-experienced* 又は *Probererfahren* と書くべきである。

検査が済むと相談がおこなわれる。相談をおこなう場合はできるかぎり幼児も同室させるのがよい。もし事情があつて幼児を同室させ得ない場合は、相談者は一応幼児を観察しておくことが必要である。

相談者は、同道者が相談室に入室する前にカルテをよくしらべて、今後のききとりの内容その他について、考えをまとめておかなければならぬ。できれば、テストにおける幼児の態度等も一応観察しておくのがよい。

同道者の入室に際しては、これから打ちとけて同道者が相談できるような明朗な態度で迎え、服装や頭髪などの不潔のために同道者に嫌悪の感情をおこさせないように注意しなければならない。

相談の仕方は相手に十分語らせ、そのうち必要な箇所のみを把握し、その結果まだ不十分な事項を補充書きとりし、これらを悉く済ました後に指導をおこなうことが必要で、ききとりは談話のごとくみせて系統的におこなうことが大切である。

指導をしておこなうのはよくな。母親の談話から必要な箇所をとらえたり。補充書きとりをする基準を正しく把握することは相談者のきわめて重要な資格である。その基準としては、まず問題事項（主訴と異なることがある）の把握に努力し、次いで問題事項の原因を究明に全力を注がなければならない。指導ももとより大切であるが、現在の教育相談学の程度では、原因を把握する技術にまだ大部分の問題がかかる。一つの問題事項について原因を究明する方法は、その問題事項における原因としてとりあげられるすべての可能原因（記憶できない場合は同道者の入室の前に書物を読んでおく）について、ききとり、更に不十分なものは補充書きとりをおこない。その問題事項がいかなる原因に基くかを決定しなければならない。この可能原因その他については第二部で述べよう。

以上のように、主訴から、検査やききとりによって、問題事項を決定し、その程度・原因及び特徴について判断を下すことを教育診断（又は単に診断）という。

診断について相談者に自信ができるば、つづいて教育指導（又は単に指導）をおこなうのであるが、指導はできるだけ具体的におこなう、例などを多く示すのがよい。指導をおこなう場合は、まず診断の結果のうち指導に必要であると思われる内容を話さねばならないが、子を持つ親の心について、相手の心理をよく考えておこなうことが必要である。

たとえば、その幼児の非常に低い知能について話すときじで、最初から低い知能の程度を端的に言いきらないで、はじめは「頭がよくないようですね」というようにいつて相談終了までにじょ／＼に正しい認識をおこなわせる方がよし。

そして診断結果にもとづいて指導を談話的におこなうのであるが、単に幼児が知能検査にだけやつて来たような場合を除いて、指導内容は教育相談の中心であり全部である。母親の中には、相談に長くねばる結果、相談時間が随分無用に長びくことがあるが、相談者にとつては只一回の相談にすぎなくともその母親にとつては育児の一生の想い出に残る内容であり、今後何年間はこの時の相談者のことばを人にも語り自分で育児の根拠としてあるまることを考えて、相談者はできるかぎり親切におこなうべきである。

要するに、相談者が、子を持つ親の心になつて親切に熱心に相談をおこなえば、大きなあやまちをおかすことは、まず少しく。なお指導の結果については、そのままにしないで、適当な期日に文書でその後の様子について聞くわせるなり、再来を求めるなりして、指導の徹底と改善を計り、併せて教育相談の着実な進歩を計る重要な材料にしなければならない。

四、教育相談の内容

幼児の教養相談の内容は、主訴によつてこれを分類すると

(1)知能にかんするもの、

(11)一般的な軽け方にかんするもの、

(111)就学、入園にかんするもの、

(四)特殊環境児の軽け方にかんするもの、

(五)特殊軽け方にかんするもの、

があり、特殊軽け方にかんするものとしては、身体にかんするものの、言語にかんするもの、性格・情緒及びそれに関連した悪癖・非行にかんするものがある。昭和二十五年度に愛育研究所の教養相談でうけつけた主訴の内容を示すと次頁のごとくである。

教育相談の内容は、場所と時期によつて異なる。すなわち場所によつて随分その内容が異つており、たとえばアメリカ合衆国の例でみると、神経質なこどもにかんするものが相当多いが〔註〕わが国では独立心のないといふようなことが、多くあらわれている。又東京都内では就学・就園にかんするもののが多い。たとえで愛育研究所における昭和二十四年度の教養相談の内容についてしらべてみると相談件数七百五十四件のうち就学入園の相談は二百八十五件にのぼつており、昭和二十五年度には千百四十九件のうち五百八十一件(四八・四%)にのぼつてゐる。〔註〕

[註] "The young child and his parents" by J. C. Foster and J. E. Anderson P. 21

[註] ただし愛育研究所で昭和二十五年度にうけた相談件数一一四

九件の内訳は次の如くである。

年齢	人數
1才未満	38
1才	55
2才	69
3才	84
4才	101
5才	276
6才	411
7才	43
8才	26
9才	13
10才	4
11才	7
12才	11
13才	4
14才	2
15才以上	2
不明	3
計	1149

年齢	人數
0才	17.65
1-5才	6.99
6-11才	0.75
12才以上	0.58
計	0.17
%	0.33

相談の内容は、年代や時期によつても相当差異を示す。たゞ

年齢	0才	1-5才			6-11才		12才以上		計	% %
		才	才	才	才	才	才	才		
一、知能	知能検査	15	140	55	2	212	17.65			
	知能遅滞	3	28	50	3	84	6.99			
	精神薄弱	1	6	2	0	9	0.75			
	学業不振	0	4	3	0	7	0.58			
	数観念がない特殊才能及びその教育	0	2	0	0	2	0.17			
	計	19	183	111	5	318	27.7			
二、就學入園	就学	0	184	329	0	513	44.6			
	就園	0	68	0	0	68	5.91			
	転学・転園	0	5	12	0	15	1.31			
	進学	0	0	4	5	9	0.78			
	計	0	257	345	5	607	52.8			
三、一般的躾け方	教育方針	0	5	1	0	6	0.50			
	教育方法	0	12	11	0	23	1.92			
	一般的躾け方	6	38	3	0	47	3.91			
	文化財の与え方	0	1	2	0	3	0.26			
	文字の教え方	0	0	3	0	3	0.26			
	食事の躾け方	0	1	0	0	1	0.08			
	離乳の躾け方	1	1	0	0	2	0.17			
	排泄の躾け方	0	1	0	0	1	0.08			
	計	7	59	20	0	86	7.48			
四、特殊童的環境方	一人子の躾け方	0	4	0	0	4	0.33			
	養子の躾け方	1	0	0	0	1	0.08			
	片親子の躾け方	0	2	0	0	2	0.17			
	計	1	6	0	0	7	0.58			
五、身體	身体虚弱	0	2	2	0	4	0.33			
	身体発育不全	1	3	1	0	5	0.42			
	運動遅滞	1	4	2	0	7	0.58			
	夜尿	0	1	1	0	2	0.17			
	左利き	0	2	0	0	2	0.17			
	その他	5	13	8	1	27	2.35			
	計	7	25	14	1	47	4.09			
六、言語	言語遅滞	0	33	8	0	41	3.41			
	吃音	0	4	1	0	5	0.42			
	赤ちゃん語	0	1	0	0	1	0.08			

とえば終戦前にくらべると、終戦後は独立心がないといふ訴えが少くなつてゐる。又前述の就学・入園相談も昭和十四年度には全体の十一・三%（五十二名）を占めるにすぎなかつた。次に一年を月別にみると、各時期によつて相違があらわれる。たとえば四一六月は、子どもが幼稚園や保育所に入るようになつたが親から離れないとか、友達と遊ばないといふような就学入園によつておこる問題が多い。又十二月一月に

愛育研究所における月別主訴の内容（昭和二十五年度）

	計	0	38	9	0	47	3.91
社会性	ない	0	5	1	0	6	0.50
内	氣	9	9	3	1	12	1.08
臆病恐怖心	強い	2	2	0	1	3	0.25
依頼心	強い	1	1	0	0	1	0.08
甘	つき	2	2	2	0	4	0.38
態度	えはん	2	2	1	0	3	0.26
反	抗	0	0	0	0	8	0.67
強	乱	0	0	0	0	2	0.17
かんし	やくま	1	0	1	0	4	0.33
かわ	まか	0	0	1	0	2	0.17
落	つ	1	1	2	5	18	1.50
神	経泣	0	0	2	0	8	0.67
夜	夜	1	1	2	5	2	0.17
早	早	2	0	0	0	4	0.33
性	興味	0	0	0	0	2	0.17
盜	に	0	0	1	1	1	0.08
異	常	0	0	2	0	2	0.17
	計	5	64	15	3	87	7.59

は就学・入園にかんする相談が多く、三一四月は精神発達遅滞にかんするものが多いため。（次表参照）

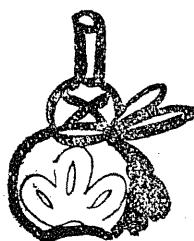
五、結び

幼児の教育相談は、幼稚園や保育に有効なものであり、幼稚園の先生が幼児の教育相談を上手にすることや教育相談の施設が充実することは、家庭教育にとってまことに望ましいことである。

精神発達遅滞相談	人際相談	主訴	
		月	年
10	0	6	4
5	0	10	5
6	1	20	6
2	0	3	7
2	0	3	8
4	0	5	9
4	0	44	10
7	0	62	11
2	0	24	12
4	0	12	1
7	0	31	2
2	0	43	3
4	1		
3	2		
13	8		

私達はできれば、たとえば教員養成校における教職課程の中に「幼児の教育相談」の講座を必須科目として設けるなどして、幼稚園の先生がすべて立派な教育相談者としての資格を持つようになり、教育相談施設は、これらの先生が教育相談において解決していく難問についてのみ、先生にたいして教育相談をおこなつたり、あるいはそれらの難問にかんして先生が父兄を教育施設に直接来させたりすることに全力をあげてもなお多忙であるようになればすばらしいと思う。

なお、教育相談においては家庭や幼児の秘密にふれることも少くないが、無責任にこれらの秘密をもらさないよう特に注意しなければならない。秘密厳守は教育相談にたずさわるすべての者が、最も守らなければならぬことの一つである。



何を話すか

……幼児ばなしの選び方にについて……

上澤謙二

☆絶えずぶつかる問題

「何を話すか」

お話をしようとして、まあぶつかる問題はこれである。所詮話材の問題である。「どんなお話をしたらよいか」という問題である。

ところで、幼児教育者は絶えずこの問題にぶつかる。始終幼児にお話をしなければならないからである。しかもそれが「教育」である限り、ひよっこり思いつきの、いいかげんな無責任なお話は許されないからである。

さて「何を話そうか」と思つて、話材をさがすとする。その少なきに苦しむよりはむしろその多きに苦しむだろう。そ

幼児に対するお話は、むかしむかしの昔話や伝説から始まつて、最近はいろいろ新作が発表され、相次いでお話集が出版されている。書架から一冊を取つて、一ページをめくれば直にお話が出てくる。便利であり重宝である。けれども、その「便利重宝」ということが、或る場合には、大に警戒せねばならない危険を伴つてゐるのではないか。

つまり便利だから、ついひよっこり取りあげるとこうことになる。そうして暗誦的に話すということにもなる。殊に恐ろしいのは、それでも済んでいくことである。幼児はお話について批評をしない。不平もいわないからである。いやでも、つまらなくて、がさがさするか、よそ見をするくらいで、大体そのまま聞くからである。

更に恐ろしいのは、好ましくない感情も、誤まつた思想もそのまま彼等の心にはいつていくことである。そうして或は奥深く印象され、或は根深く刻みつけられることである。そうして知らない間に育つていくことである。

「幼時のお話は一生消えない宝を与える」といわれる反面には、「一生消えない禍を与える」こともあるのではないか。考えれば考えるほど、お話の選び方は大切な——といふよりは、真剣な問題といえよう。特に幼児はなしに於てそうである。

☆よいお話をわるいお話

けれども、多くの場合、どうも前記の「便利重宝」にたより勝ちになるようである。

バラバラとお話の本をめくつて読んでみると、「これはおもしろい」「と思う。「これはためになる」と思う。或は「きれいお話」「詩的なお話」などと思う。それですぐ、「話してみよう」ということになる。

つまりお好みに応じて百貨相並ぶお店へはいつていつて、あれこれと見まわつて、ふと気に入つたものを手にするところ行き方である。成程便利重宝この上もない。

しかしこれが大切な考え方、真剣な態度を欠いていることは明かであろう。いわばその時々の氣分を中心氣持本位である。苟くもお話の問題を重大切実に考へるものは、これでよ

と安心してはいられない。自分の時々の氣分氣持以上に客観的なもの原理的なものを求めるのは当然であろう。即ち「お話選択の標準」ということが考へられるようになるのである。

これに對してよく採られる方法は、「話してよいお話」「話してわるいお話」というような分類をして、その項目を並べることである。

例えは、よいお話として——親しいもの、明朗なもの、理想を含んだもの、想像に訴えるもの、芸術的な味のあるもの、知見をひろめるもの等。わるいお話として——あまり恐ろしいもの、悲しいもの、陰鬱なもの、残酷なもの、道徳に合はないもの、すぐまねられる悪いことが出てくるものなど。

アメリカのお話の大家マアガレット・エグレストンは、その著「宗教々育に於けるお話の活用」(宮崎小八郎訳)の中で「話してよいお話」として、左のような種類を掲げている。

神の愛を示す話、自然界の話、家庭生活の話、活路を開く話(小兎が度々窮地に陥りながらそれを切抜けるような)原始時代の信仰や習慣を知らせる民間説話又は神話、一種の疑問を解くホワイ・ストオリ(兎のしつぽはなぜみじかいといふような)ユーモアを啓發する話、積極的に教訓する話(善因善果惡因惡果のはつきり出でているような)美を愛する

心を養う話、間接にいろいろな教訓を含む動物の話、聖書の話など。
又、「話してわるいお話」としては、感傷的な話、諷刺的でち
てつこすりによつて教訓を与える話、恐怖心を起す話など。

こういうように分類によつて標準を示すことははつきりし
てゐるし、包括的でもあるので、妥当でもあり、必要でもあ
ること、いうまでもない。

しかしこういう行き方は屢々述べられてゐるので、ここで
は又別な観点から考察してみたい。

☆通用できない昔ばなし

時代による道徳観の相違——これは新時代のお話の選択に
当たつて、心すべき点であろう。
著るしいその一つは「手柄によつて王女やお話をまをもら
つて出世する」という型のお話である。

王さまがおしげな夢を見るとか、殿様がむずかしい問題に
ぶつかるとか、強敵に相対するとかして、困つた結果、それ
を解くか破るかするものには、褒美として王女なりお姫さま
なりをやるというおふれを国じゆうに出す。それに応じた或
る人が見事に目的を達し、生きた褒美を自分のものにして、
万人の称賛と美望を博すといふ——よくある筋である。

しかしこれは人間を褒美といふ方法に使うものであり、そ
れを解くか破るかするものには、褒美として王女なりお姫さま
なりをやるといふが、それが國じゆうに出す。それに応じた或
る人が見事に目的を達し、生きた褒美を自分のものにして、
万人の称賛と美望を博すといふ——よくある筋である。

人の要求や意志を無視して、品物のように他に与えるもの
である。明かに人格の蹂躪である。これは人格觀念の幼稚な
時代の產物であつて、人格に絶対の価値を認める現代の思想
とは、到底相容れないものである。

著るしいもう一つは「狡智による虚偽が成功する」という
型のお話である。

私が幼い時聴いたお話で、今もつてよくおぼえているのに
こんなのがある。

「お寺の和尚さんがよそから牡丹餅をもらつたので、小坊主
にたへてはならないといつて出かける。けれども小坊主はそ
つとたべてしまつて、本堂の阿弥陀像の口もとへ餌をねりつ
けておく。和尚さんが帰つてくると、阿弥陀さまがたべたと
いう。和尚さんが怒つて像をなぐると、クワンクワン（食わ
ん食わん）と鳴る。『それ、食わない』といふぞ」と、和尚さ
んがいうと、小坊主は『それでは釜ゆでにしてみなさい』とい
う。釜に入れて湯をわかすと煮え立つて、クツタクツタ
(食つた食つた)と音がした。それで小坊主はうまくのがれ
た」

昔は詐欺虚構は智慧のあらわれと見做されて、ほめそやさ
れた。又実際弱者が強者の制圧を逃れる手段としては、こう
いう方法しかなかつた。しかし現代に於ては智慧は眞実のた
めに用いらるべきで、詐欺は罪悪である。又強者弱者も同一
の権利を有して、その制圧は正しい方法によつて対抗できる

ようになつた。だからこういう思想は最早や過去のもので、今日は通用できなくなつたのである。

しかもこの両方とも、そうすることが称讃と羨望の的になり、「うまくやつたな」とほめそやされるといふに至つては、いよいよ許し難い。それは取りも直さずこのことを支持し獎勵する意味になるからである。

こういうお話を無邪気に聴いた幼児に対しても、それは好ましいものだという感情を呼び起し、正しいことだという判断を促すからである。知らず識らずのうちにそれが屢々印象されれば、單に好ましくないところではなく、恐ろしい結果を齎らさないと、誰もが断言できないからである。この点は重大である割合に、案外等閑にされているのでわなからうか。

☆教育と教訓の取違い

幼児ばなしの種類はいろいろあるが、その基調は「教育的」という点にあることは、いうまでもない。ところが、これがよく「教訓的」とまちがえられる。そうして幼稚園ばなしは教訓ばなしと取りちがえられる。

例ええばここにこんなお話がある。

「啓ちゃんはいつも大将になりたいのです。だからお友だちの中へはいると、いぱりだします。だからみんな啓ちゃんと遊ばなくなつて、ひとりぼっちになりました。それでつまら

なくなりて、オウムのところへやつてくると、オウムは『啓ちゃんの弱虫』といいました。啓ちゃんはじぶんは強いと思つていたので『僕は強いよ、大将になるんだよ』といふと、オウムは『むやみにいばつたり、いじめたり、けんかしたりするものは大将になれないよ。えらい大将は、みんなによくしてやつて、困つた時にはおせわをしてやるつて、先生がおつしやつたの忘れたの』といいました。啓ちゃんは『わかつた、僕、あしたからそうする』と答えました。その次の日、啓ちゃんはいばつたり、いじめたり、けんかするのをやめてみんなと仲よくして、よくしてやつて、困つているお友だちのおせわをしてやりました。先生が『啓ちゃん、きょうはえらいね』と、ほめてくださいました。啓ちゃんはうれしくなつて、オウムのところへきて『オウムさん、ありがとう。僕、えらい大将になつた』といふと、オウムはいきなりうたひだしました。一わがままをすてて、人々を愛し、日々のつとめを、なさしめたまえやー』

以上は要約であるが、これは啓ちゃんとオウムのお話でありながら、その氣持や活動よりもっと強く感ずるものがある。それはいばつたり、いじめたり、けんかしたりしてはならない」という教訓である。その教訓がお話の基本となり、中心となり、全体となつていて、子供と鳥はそれを説明するために借りてきた材料であり、用いられた方法であり、全く教訓のロボットなのである。だから精彩を欠き活力がない。

だから子供と鳥に對して興味も感動も湧かない。従て深い印象も、強い感化も生じないのは当然である。

以前、小学校教育で汎く行われた修身説はこれに属するものである。予め「忠義」とか「孝行」とがいう徳目を定めて、それに合うよういろいろなお話を持つてくる。徳目が主で、お話を従である。だからお話を借物の道具のようで、一向に血も通わなければ生命も躍動しない。修身科が生徒に取つて「つまらないもの」といわれたのは、このために外ならない。

ところが、この行き方がよく取りあげられる。前述のように学校教育の正科にまで取りあげられた——というのは、一定の教訓乃至徳目を持つてくると、目的がはつきりする。従てお話を組立方が簡明になる。その取扱方もやさしくなる。そうして教えるべきことが直接的に教えられるからである。つまり子供にお話するということは、何かきまつたことを教えることだというように思ひ做されていいるところからくるのだろう。

しかし、お話はけつして一定の教訓、徳目、觀念、主義などを教え込まねばならないといふようなものではない。そんな窮屈なものではない。否、その反対で、何の条件も束縛もなく、伸びのびと自由に作られ語らるところに特色がある。それがお話本来の世界である。もしも何等かの教訓に合致することがあるとすれば、それは予定の計画でなくて、自然の

結果であらねばならぬ。

それはどのお話にも目的はある。しかしそれはお話をそれ自身のうちに内包された目的であつて、外部から附け加えられたものではない。よしんば作者又は話者が或る理想をもつて、その理想からそのお話が發出したにしても、お話の内容の構成や事件の發展は、飽くまでも有機的必然的で、他の何者からも左右されない、それ自身の世界を持つてゐる筈である。そうしてそれがおのずからその理想と相合ひ、教訓と相通うものがあるということになるのである。

マウド・リンゼーの著「お母さまのお話」は、ここに引かれるのに恰適なものといえよう。

彼女はフレーベルの「マザー・プレー」に痛く動かされて、そこに含まれた真理を取り入れた単純なお話を書こうと思いつた。けれども彼女はけつしてそれに束縛されなかつた。或は身辺の出来事から、或は幼時の記憶から、或は或るお話の暗示から、自由に取材して、思うままに書きあげた。それがむしろ自然に「マザー・プレー」の含む真理に合致した「お母さまのお話」となつたのである。たいがい各篇のはじめに、そのお話に関連する真理が「お母さまへの標語」として掲げられているが、それはそれぞれのお話におのずから含蓄されている精神を示して、お母さんに一つの示唆を提供するだけのものである。

例えば「どんなつまらないような幼き手でも、他のものが

代ることのできない自分の世界をもつてゐる」という標語がついてゐる「茶色の小馬」というお話の大要はこうである。

「おじさんが小馬に乗つて出かけると、途中で足のかなぐつが取れて、さがしても見つかりません。それで鍛冶屋さんのところへいつて、かなぐつを作つてください」というと、鍛冶屋さんは石炭がないと作れないといつたので、小馬をそこへ頼んで、石炭を買いたいきました。道で、異物屋さんや、百姓や、粉屋さんに遇つたので聞きましたが、誰も石炭を持つていません。それからおばあさんが来たので聞くと、土の中の坑夫さんのところへいきなさいと教えてくれたので、そこへいつて、やつと買つて、鍛冶屋さんのところへもつてくれると、それで火をおこして、かなぐつをつくりました。それで小馬はかけだすことができました。ペカペカ、ペカペカ」「教育する」つもりで「教訓する」ようにならないように、「教育ばなし」を選ぶつもりで「教訓ばなし」を取りあげることにならないように——これも心すべき点であるう。



もしも幼児教育が性格教育というところに一つの重点があるとすれば、お話を選択も、そういう立場からなされる必要があるだろう。

従来この方面は殆ど着手されない処女地ともいふべきだが、アメリカのクラーク大学講師ジョン・ペートリッヂ博士

が夫人との共著に係る「学校及家庭に於けるお話「の中に、これに關する適切な指示とも有力な指導ともいへべき言説が見出だされる。ここにその幾つかを抜萃しよう。

「お話は児童の個性の要求に答えられるだろう。感情生活の根抵を強く打つお話が、個人の傾向を支配する上に、有力な効果をすることはたしかと思われる。その効果とは、好ましい特性を伸ばし、好ましくない特性を矯めることである」

「もしそういう仕事がはじめて取りあげられるならば、児童とお話との二つの方面に対する綿密な分析が必要とされるだろう」

「感情的欠陥は、大体満たされない欲望の暗躍から生まれる。個性の陶冶に資する理想的なお話には、こういう氣質的な欠陥に対する入念な分析が取入れられねばならない。そしてこれには、実際教育者が普通に行なう以上に深い方法——即ちお話を、児童の潜在的衝動に及ぼす一々の効果を発見するため、お話を根本的に對する洞察的な研究が要せられるだらう」

「我等はそういう研究の完成を待つてはいられない。児童の文学並児童を研究しようとするものは、たとえそれほど広く又深くないにしても、専門家と同じ立場に於て、或る程度の、或る種類の域に達している。個性の強い要求は重要な目立つもので、容易く捉え得るものであり、従てこれに對応する或る種のお話の目的と効果は、殆ど誤ることのないほど明

瞭なものである」

「いろいろなお話を知つてゐる親や教育者は、それを通して、或る程度の指導をすることができるにちがいない」「お話を個人の関係が応用心理学のむずかしい部分だといふ事実によつて、驚き又惑うには及ばない。問題の多くは表面に横たわつてゐる。そうして児童に対する単純な常識と熱心な興味が有効に用ひられるように、門は開かれていろのである」

実際この処女地を開拓するのは大事業である。まずお話を汎く蒐集されなければならない。そうしてその一々が、児童の精神生活のどういう方面にどんな感化を及ぼすか、どんな効果を齎らすかと、いうことが究明され、更にそれが年齢に応じ、性格に応じ、環境に応じて、類別され、排列されねばならないだろう。

しかし我等はこの問題に向かつて出来るだけをなすべきだらう。それはペートリッヂ博士がいふように、「そういう研究の完成は待つていられない」からであり、又「或る程度の指導ができるにちがいない」というその言に励まされるからでないだろう。

けれどもこれは今まで全然ほんりつけなしにされていたといふものもない。子女の教育に熱意を有し責任を感じ、お話を興味と注意を持つ親や教育者は、むしろ我知らず、既に自然にこの方面に鍼を入れたのである。

例えは陰気な子供には明るいお話を、むやみにはしやぎまわれた子供にはおちついたお話を、寝る時にはしづかな平和なお話をと/orのように、極めて常識的であり、単純に経験的であるが、おのずから定まつてゐるようなところがあるのは、即ちわざかでも鍼を入れたわけである。

☆多血質の子供とお話

そこで、我等は及ぶ限りに於て、多少とも前進を試みてみたい。

従来性格を形成する氣質の類型としては、多血質、胆汁質、粘液質、神經質の四つが數えられた。近時心理学生理學の發達と共に、新しい分類法も提出されたが、ここでは一般にいはれるこの類型に従つて、お話との関連を考察することにしよう。

第一に多血質である。この氣質は、快活、開放的、社交的、樂觀的などを長所として具え、おちつきがない、飽きつけい、動かされ易い、上すべりなどを短所として有する。こういう子供は所謂人なつこいので、至るところで歓迎されるため「ませた子供」になり、目先はきくが薄づべらになり易い。その「人なつこさ」を深化し高化して、愛敬の方向に導びくことが大切だろう。木の上の巣の中に於ける鳩の親子の楽しい生活を描いて、その間おのずから相互愛敬の交流をあらわしたリンゼーの「早い翼と美しい声」や、お母さん

にお使やお手伝の代金を請求して、あべこべにお母さんからいろいろなことをして何も請求しないお手紙をもらつて、その無限の愛がわかつた、カールの「プラットレーがもらつたもの」など。それから、三匹きの姉妹の蝶が、雨に合つておたがいに助け合う、ドイツの民話の「三匹きの蝶の姉妹」や、お菓子の争から弟をなぐつて、弟とお菓子とどつちが大切かと、通りがかりのおじいさんに聞かれて気がついた、リカーズの「お菓子」など。前二篇は父母に対する愛敬の情を

後の一編は兄弟愛を進めるのに役立つと思われる。

一体に幼児は他に動かされ易く、反面好奇心が強いので、よく軽率な行動をするが、多血質なものは殊にそうである。それには軽率なために失敗したお話は、さまざまとその結果を見せつけて、一種の予防ともなり、反省を促がす動機ともなる。又反対に守るべきことをよく守つて、そのため喜ばしい結果を得たお話は、おのずからそれと自分との比較を喚び起し、新しく進む手がかり又は基礎を与えることになる。親牛のいうことをきかないで、うつかり遠くまで遊びに出てかけ、泥沼へ落込んで、やつと助かつた、ブライアントの「仔牛のブル」は前者に属し、お母さんとの約束通り、五時が鳴つたらかえつてきて、おいしいものをいだくことができた、ルーセットの「時計」は後者に応するものである。

上すべりは裏からいえば、注意が足らないことを意味するので、それを喚起するようなもの。友だちといつしよに散歩

から帰つてきて、どんなことがあつたかと聞かれためくらの子供が、他のものよりはより確かに細かく答える、カロリン・ベーレーの「小さなめくらの子供」や、猫がいろいろに考案工夫して、とうとう台所にあるビンの中のミルクを飲んだ、ボンナーの「ビードルのもう一つのお話」などが、これに適うだろう。

☆膽汁質の子供とお話

第二は胆汁質である。この氣質は、決断的、実行的、集中する、しつかりしているなどを長所として見え、強情、傲慢わがまま、同情が乏しいなどを短所として有する。

果断と実行力が自分のためにのみ使わると、自我的になり、利己的にする。それは人間固有の傾向ともいふべきだから、他のため人のために用いるように導びく必要がある。木の上の巣の中にいる傷ついた駒鳥を喜こばそうとして、苦心して木を伝わつて上まで伸びていつた朝顔が、遂に目的達成して、自分も大きな喜びを得る、エリザベス・マクラッケンの「なぜ朝顔は上へ伸びたか」や、暑さにあえぐ農夫を見た雲が、自分をなくして雨になつて天上からおりてきて助けれる、ロベルト・ライニックの「雲」などは、この要求を満たすだろう。

強情は反感の強いところから起り、傲慢は盛んな誇示本能から生ずるが、幼児の中にも、よくこういう傾向をもつもの

があり、こういう場合に陥ることがある。ひとりで伸びようと強情を張つたるバラが泥にまみれて、その無益なことを悟り、風に助けられる、ガツラーの「ひとりで昇ろう」や、五ひきの水棲動物が逃げる方法についてそれぞれ自慢し合うが、謙遜で用心深いドジョウの説明に、みんな口をつぐんで恥じ入る、ウェーデの「水の仲間の会」などが、これに対応するものとして挙げられよう。

反感やわがままは感謝の心のないところに萌す。この感情を養うことは、人生を明るくする一つの胚種を植えつけることである。じりじり照りつける太陽に不平をいつた花が、雨、雲、風への感謝を通じて、結局太陽に感謝することになる、ライマン・アボットの「花の感謝」や、片目、片足、片羽で生まれて、いふことをきかない子供の鶏が、遊びに出て子供や犬に追われ、初めて親に対する感謝が湧いて、両目、両足、両羽になる、スペインの伝説に取材した「小さい半分にわとり」などは、ここに利用されるだろう。

☆粘液質の子供とお話

第三は粘液質である。この氣質は、沈着、入念、考え方強い。粘り強いなどを長所として具え、冷淡、緩慢、無精、鈍感などを短所として有する。

冷淡や鈍感などは、他人との交渉に対する興味を刺戟することによつて、引き出すいとぐちを与えられるだろう。それ

には、兄弟姉妹総がかりで、おばあさんの大すきなお菓子を作つて、誕生日の贈物にして喜ばれる、リンゼーの「誕生日のおくりもの」や、縫物をするおばあさんのそばにいて、針の孔に糸を通してやつたり、ころがりおちた糸玉を取つてやつたり、喜んでいろいろ手伝う、カロリン・ベーレーの「おばあさまのめがね」などは、好適と思われる。

幼児は「当るもの」とか、謎とかを好むが、そこには「何だらう」という好奇心が働き出し、「いい当てよう」という努力が発してくるので、この問題的興味を應用したお話は、自發的な心的活動の機会を与えるものとして、粘液質の子供に話すのによい。おばあさんが持つてきたおみやげを子供たちに当てるさせる、リンゼーの「三つの当るもの」や、木へひつかかつたゴム風船を見てびっくりした小鳥たちが、何だらうとおたがいにいろいろ考える、拙作「赤いゴムふうせん」などは、この場合に当てはまると思われる。

☆神經質の子供とお話

第四は神經質である。この氣質は、頭がはたらく、気がきく、順応性が早い、表現力が豊かなどを長所として見え、飽きっぽい、臆病、物事を気にする、口達者の割に実行力が伴わないなどを短所として有している。

こういう子供にはゆつたりした朗かな氣分を味わせるのがよい。それは万事を気に病むてせこせいた状態を緩和するか解放するかする。その最も著るしいものは笑である。これをお話の世界に移せば、滑稽ばなし又は無意義ばなしとなる。但しその笑は、飽くまでも自然で無邪氣でなければならぬ。それで初めて「精神的解放」になるのである。大袈裟な作風と、無理なくすぐりとは、反対に飽満と疲労を齎らす。現在の所謂「笑いばなし」に實にこの種のものが多いことは警戒しなければならない。

机と椅子が散歩に出て、いろいろな失策をして笑の種を蒔く、エドヤード・レーヤの「机と椅子の散歩」や、大きな一つの話に、家じゅうの人人が出て、総がかりでやつと抜く、北欧の民話「燕ぬき」などは、この種の見本といつてよからう。飽きっぽいのに対して、忍耐持久の心を養うのに資するお話をとしては、ヨーロッパの民話「どうして鳥たちの巣はちがうか」や、フランス・ベーレーの「百合は何が入用だつたか」などが示されよう。前者はカササギが巣を作るのを、い

ろいろな鳥が見ていたが、他のものは途中でいつてしまつたのに、椋鳥はおしまいまで見て、完全な作り方をおぼえたといふお話、後者は女の子がきたない球根からきれいな百合の花を咲かせるまでの忍耐を描いたお話である。

むやみにこわがることも、神經質の子供の特徴だが、風をこわがる子供には、風がいろいろ面白いしわざをして、子供と親しむところを取扱つた、リンゼーの「ふさける風」や、夜をこわがる子供には、夜の美しさと楽しみを子供が味わうところを描いた、ランキンの「夜がくるのを見守つた子供」や、見馴れない動物をこわがる子供には、こわくてたまらないかつた大きな牛に無理に乗せられたごびとが、意外な親しみと喜びとを見出だして仲よしになつた、ファイルマンの「小人と牛」などが、それを緩和するのに役立つだろう。

臆病や実行力の欠乏に対しては、元氣をつけること、意志を強めることが必要だが、鳥小屋のみんなが雪ぶりの寒さに閉口している時、七面鳥がみんなに元氣をつける、フォックスの「その最上をすること」や、兵隊さんがその中にいるといふ太鼓を買つてもらつた子供が、それに力づいて、太鼓をたたいてお友達のけんかを鎮め、大きな馬のそばを恐れずに通り、暗くなつても泣かないで家へかかる、ベーレーの「太鼓の中にいる兵隊さん」など、これに該当するものといえよう。

ちよつとしたことにもすぐ泣き出す所謂泣虫も、神經質の

子供によく見られるが、泣虫の小兎が、泣きものばかりいる大泣きの森へはいりこんで、おどろいて逃げてかえるといふ、ブライアントの「泣きうさぎ」は、泣くといふことの無益有害さを観面にあらわしているので、その矯正に資するところがあると思われる。

☆最適のお話はただ一つ

幼児教育者としては、お話を選ぶと同時に、お話する時機、場合を選ぶことが、極めて重要重大である。折角よいお話を選ばれても、それを話す時機が不適当だと、価値は或は半減されるだろう、或は全然發揮されないだろう。

その極端な場合をいえば、表には雪があつっているのに、桜の花のお話をするというようなことである。まさかこんなことはあるまいが、幼稚園では一年じゅう毎日子供と接觸しているのだから、適当な時機と場合はいつでも見出だされるわけであり、見出だされねばならぬわけである。

適当な場合が選ばれて、適当なお話を話されれば、その価値は倍加され、その効果は累加されるだろう。前例につづいていえば、表に雪があつている時雪のお話をし、桜が咲いている時桜の花のお話をするといふわけである。

これは環境の関係ばかりではない。子供の心持との関係も考慮されねばならない。彼等は今、何を要求しているか、何が問題になつてゐるか、何に興味をもつてゐるか、それに即

して、お話を選ばれ、なされねばならない。

よきお話を選び、適当な環境を選び、適切な心理を選んで、材料と応用と、内と外と、相合ひ、相應するところに、「何を話すか」という命題に対する理想的な解答が与えられるであろう。

しかも、いかなる場合にも「最適」はただ一つしかない。世に行われるお話はかぞえきれないが、それぞれの場合に於ける「最適なお話」は「ただ一つ」しかない筈である。この「唯一最適」を発見することこそ、その時々に課せられる話手への重大な責任であり、光榮ある任務であらねばならぬ。

〔附言〕

本稿に引用したお話は、いずれも、拙著「新幼児ばなし三百六十五目」六冊（恒星社厚生閣出版）の中にあります。

「幼児の教育」を求む

本学図書館において「幼児の教育」ブック・ナンバーを揃えた
いと存りますので御協力ねがいます

一、巻号名 第一巻より第四巻までの各号

一、買求価格 一冊三〇円、お譲り下さる巻号名をはじめ御通

知下さ

東京都中野区宮前町四六 宝仙短期大學
電話中野(38)三五一一番



ア
メ
リ
カ
童
話
か
ら

13

松 原 至 大

おふろの嫌いな子熊

あるところにカビー、ナビーという名の二匹の子熊がいました。大きなみどりの森に近い湖のはずれ、そこにある小さな丸太小屋に住んでいました。お母さんの名はザンティビ、お父さんはオールド・ラーリーとしました。

毎朝オールド・ラーリーは、

「あう、起きる時間だよ。」といつて、子供たちを起しました。するとカビーは、右の目を開けて、鼻をならしました。ナビーは、左の目を開けて、これも鼻をならしました。

「トーストのにおいがする。」と、カビーがいいました、「蜂蜜のにおいがするよ。」と、ナビーがいいました。それから二匹は、両方の目を開けて、大急ぎで服を着ました。

オールド・ラーリーは、カビーの青い胸かけを結んでやりました。ザンティビは、ナビーのピンクの胸かけを結んでやりました。二匹はいつしょに、お父さんが作つた腰かけによじのぼつて、白い大きなカツプからミルクを飲みました。

「ほく、ミルクが好きだよ。骨をじょうぶにしてくれるんだよ。」と、カビーがいいました。

「ほく、ミルクが好きだよ。ほくをひでる元氣にしてくれるんだよ。」と、ナビーがくじました。

白いカップが、からっぽになりませんか? ザンティピが

「ここんた、トーストと蜂蜜がありますよ。私が呼んだら、かぐおふるにはじるお約束をすれば、一切れづつあげますよ。」とくじました。

一一匹の子熊は、茶色の頭をうなずいて、すぐにはくりますと、約束をしました。こうして、カビーは、トーストと蜂蜜を食べました。ナビーも、蜂蜜とトーストを食べました。一一匹は大きな二切れを、かけら一つ残さず食べてしまいましたと、お母さんの顔を見て、くつしょに

「むかわらなま。」とくじました。

朝の食事がすみますと、一一匹は外へ出で、日光の中で遊びました。湖に石を投げて、しぶきのあがるのをながめました。大きなみどりの森のうちを歩いて、お母さんのテーブルを飾る花をひみました。木と木の間で、鬼ごっこもしました。

カビーも、ナビーもあまり遊びに気をとられて、いたので、ザンティピが

「おやつの時間ですよ。」と呼んだ時には、一一匹ともすつかりお約束をしたこと忘れてしましました。カビーは、すぐりのやぶのうしろに、ナビーは低いえぞまつの下にかくれました。

一一匹が返事をしないので、ザンティピはオールド・ラーリーにくじました。

「あの、いたずら坊やだから、あなたからおつしやつては下さんませんか? またかくれているのですよ。」

「よし。」と、オールド・ラーリーはうなりました。

「こひ、こひ、すぐきて、おやつにおはづ。」

オールド・ラーリがこわい声を出してもうますとカビーはあわてて、ナビーはちよこちよことかけてきました。そしてたちまち服をぬいで、ザンティピがわかして待つていたおふる桶の中に、とびこみました。よく洗つてさつぱりしますと、一匹は、どうしてお母さんがお呼びになつた時、すぐにはじらなかつたのかと思いました。
けれどもカビーがすぐりのやぶに、ナビーがえぞまつの下にがくれることが、毎日毎日くり返されました。その度にオールド・ラーリは

「こら、こら、すぐきて、おもろにおはづり。」としゃりました。

ある日のこと、オールド・ラーリが出かけました。大きなみどりの森の向うがわく、スヴィート・クローヴァ（蜂蜜がたくさんとれる草の名）を貰ふにじつたのでした。そのあとで、ザンティピはおもろの用意ができますと、

「さあ、じらのしゃく。おもろの時間ですよ。」といふました。

ところがその日、たちまちカビーはすぐりのやぶのうしろに、ナビーはえぞまつの下にがくれてしまひました。ザンティピは、じく度もじく度も呼びましたが、じたずら坊やの熊たちは、返事をしませんでした。

「ほつ、ほつほつ。ほくたち、お母さんをだましちまつた。」と、カビーが笑いました。

「はつ、はつ、はつ。さあ、なにかおもしろいことをしようよ。」と、ナビーが笑いました。

「じじことがあるよ。あのほしやなきのぼつて、お母さんがなにをなさつてじるか、窓の中をのぞこうよ。」と、カビーがじくました。

「よしきた。ほくが、先にのぼるよ。」と、ナビーがじくました。

それはしやなきは、まだほんとうの木らしくなつてしませんでした。熊のお父さんもお母さんも、まだ若木だといつていたほど弱くて、まがりやすい木でした。ナビーが、そのつべんにのぼりますと、前やうしろへめはじめま

した。

「やあ、おもしろいなあ。早くのまつできて、まつしょにゆすぶりなよ。」と、ナビーがきくべき声でいました。
「ほく、ゆするの大好きだよ。」と、カビーが得意になつていました。

しかしこの若木にとつては、ふとつた一匹の子熊は重すぎました。カビーが、てつべんにじきますと、前やうしろにゆれるかわりに、まがりはじめました。初めは少しでしたが、だんだんにまがつ、て湖の水の上までまがりました。そしてそのうちに、恐しい大事件がもちあがりました。ナビーも、カビーも、すべりはじめて、一匹ともとうとうつかまつてしまつて、ながれました。ナビーはするするすべつて、ばちゃんとなりました。湖のつめたい水の中に落ちてしまつたのです。

「わあ、これは、ひどくおまるだ。」と、ナビーが泣きだしました。

「わあ。」と、カビーも泣きだしました。

間もなくザンティピがかけてきて、湖の岸でふるえながら

「わあ、わあ。」と、泣いてくる一匹を見つけました。

ザンティピは、子熊たちにあたたかいがらしをやつて、ベッドにねかせました。オールド・ラリーは帰つてきますと、大へんしかりました。それに、子熊たちの茶色の鼻は、あんまり冷えたものですから、夕食の時 お父さんとお母さんがおいしそうに食べているスープと、新しいスワード・クローヴアの蜜のおいさく・かぐことができませんでした。

沖縄の印象

牛島義友

前書き——お茶の水女子大学教授牛島義友氏は今夏、月余に亘り沖縄に招かれて教育心理学の講習に赴かれた。現下日本にとって関心の大きい彼の島の現状は、われらのくわしく知りたいことである。特に執筆を乞うた。

(編者集部)

はじめに

沖縄といえば亞熱帯に近い島、しかも多くの孤島からなり、颱風に絶えずおびやかされている風土が想起されよう。しかしこの土地に住む人の問題はこの風土性よりも、その歴史性に根ざすところが多いようである。

沖縄では「運命の島」という言葉が使われるが、この土地は歴史的に政治的にいたましい運命の下に置かれた処である。過去においては支那と日本の二大国に朝貢して辛じて独立を維持し島津藩からは貿易の基地として利用されていた。国内では群雄割拠の戦国時代、尚王に統合された後は、武器を放棄した平和の地とはなつたが、有能な

政治家に奔走されて、人頭税による苛斂誅求或は武士階級の百姓への圧迫と強大な力で絶えず抑えられながら生きて来た人々である。沖縄となつて日本と文化を分け合つたのもつかの間で、帝国主義の最大の犠牲を払つたのはこの土地である。苛烈な近代戦の戦場となつたために、一木、一草に至るまで焼き払われ、昔のままの風物は海の色だけだと評される程の戦禍を受けた。而も今日講和によつて日本の独立が認められようとしているとき、沖縄は信託統治の名の下に土地のみならず住人の生活まで日本から切り離されようとしている。この土地に今日未だかつて一度も完全に明るい日はめぐつて来なかつた。まさに運命の島、忘れられた孤島である。この歴史性に基づいて沖縄の社会や人の問題を考えなければならない。

戦禍の姿

私は戦前の沖縄を知らない。したが

つて今度の戦禍がいかに悲惨を極めたものであるかはピンと来なかつた。港が狭いので入港できず、一日港外に停泊させられたが、その時の沖縄の夕景夜景は美しいものであつた。さんご礁のために海は琥珀、エメラルド、碧玉と宝石を溶かしたような色調であり、雲の形と色あいも亦平坦な島影を多彩に色どつている。夜は軍施設場を照らす皓々たる電燈の光はイリュミネーションのようにも美しかつた。しかし一步上陸すると一切が破壊と建設の混じた街である。かつて美女三千人をようしていたといわれる有名な遊里「辻」は荒涼たる焼野と化しておりその裏にあつた宏大な墓地すら目下取壊されつつある。私は沖縄にある昔ながらのものは墓だけであるうという印象を持つていたが、その墓さえ安住し得ないのである。

昔の那覇市は今日軍用地として物資の集積所等と化し、今日の那覇市はかつての郊外に作られている。私の泊つ

たホテルの前や横も墓で取まかれているような有様である。昔を知つてゐる人は、どうしても今日の街が以前はどうであつたか見当がつかないそうである。

この新市街には原始から文明までの様々の建物が見られる。元来沖縄の民家といふ民家は戦争で破壊され、残つた民家も戦後に焼きはらわれた。從て終戦直後は五坪の規格住宅を急造してやつと人々を落付かせたと言う。カヤ葺の五坪の掘立小屋。今日首里市にはこれが多いため、丘の上からの景貌はまさに南洋の原住民の部落さながらである。闇市やマーケットで金をもうけた人はこの規格住宅を拡張してトタン葺にかえ、更に普通の赤と白の縞の琉球瓦の屋根の本建築を復興させたものもある。更に近代的石造の大映画館も数個建築されつつある。この復興の姿に対し、或人は極めて低調だと評し、他の人は意外に復興がみごとだと言ふ。完全な無から出発したものとして

はよい方かもしだれない。とに角この地ではこゝ数年間に、原始時代から文化時代までを圧縮した形で通過した。しかし戦禍として最も悲惨を極めたのは島南端の戦跡である。激戦苦闘といつよりも、莫大な近代武器に追詰められて一步一歩と後退し、最後に取囲まれた地域は猫頭大の平地である。女子師範生が慘死したという姫百合の塔の場所は遮蔽物など何もない草原である。以前は樹木が茂つていたのだろうが、勿論たよりになるものでない。幸にさんご礁島であるためにこの地にも地下に自然の洞窟がたくさんあつた。すなわち追いつめられた人々の避難所はこの自然壕と、祖先の作つておいてくれた墓であつた。

無名戦士の墓である魂魄の塔のある場所は島の最尖端であり、牛島中将の自刃した最後の司命部摩文仁岳は山ではなくて、海岸に面した絶壁に他ならない。この、これ以上進めば海中に落ちるよりほかない点まで追いつめられ

て、何万と言ふ人々が死んでいたのである。

この沖縄の悲劇について一つの精神医学的問題がある。即ちこれは今までの悲惨事に直面し、そのなかに夫や妻や子を失つた沖縄の人々が今日精神的に健在であることが、世纪の大きな奇蹟と考えられつつある。若しアメリカ人がかかるショックを受けたならば多数の者が発狂したにちがいないのに、沖縄の人の中には精神病になつた者が非常に少く、精神安定度が高い事実が、戦後沖縄に来た米軍の精神医学者の注意を惹いたのである。之に対しても彼等は近代の精神分析派の立場から一つの解決をしてくる。即ち沖縄の人間の精神安定度が高いのは、沖縄の子供に対する育児法が原因なのでないか。子供を絶えず愛撫し、殆ど叱るといふことをしない沖縄の母親の膝下で、幼児たちは安定感のある情緒生活を送りそれが其後の性格形成に役立つたのであろうと解釈していく。それで、之を

沖縄のレッスン (Lesson of Okinawa) といふ、現代育児法の反省コード



歸属問題

横浜を出発して八日目にやつと二十九度線を突破して奄美大島の名瀬の港

についた。六ヶ月間固く閉められたカーテンをくぐつたのであるから、「何かエキゾティックな風物もがなと好奇の眼を以て上陸した。しかしこの土地の教員たちとの会合で第一に受けた言葉は「日本と異つた点がどこかにありますか」と言つたときの問であつた。そう言えば、家屋の構造で日本内地と同様であり、服装も日本と完全に同じもので日やけの程度も吾々と余り差はない。或人は伊豆の港を感じがすつかり同じであると言つたが、空襲で破壊され、復興の極めて遅々たる姿をみて私は平和な伊豆を連想することはできなかつた。粗末なパラックに少しばかりの商品をならべた疲弊し切つた名瀬市に日本の極く田舎町を連想するだけである。先生方は重ねて言はれる。「此も日本と異つてはいないでしよう。それなのになどうして吾々だけが日本から切り離され、戦争の犠牲を一人で負ひこまねばならないのか」と、早くも語調は緊張してくる。更に「土地は占領

することはできても人間は占領することはできない」との激しい言葉も聞いた。この地では日本への復帰を切願し島民の九十九%は日本復帰の署名をしている。之に反対するのは僅か二十数名だけであると、その氏名をあげることができる位に、殆ど島の全部の者は日本への復帰を希い、このために猛烈な街頭デモもやり、断食運動をしていく。船上に臨検に来た警察官も、自分も既に何日か断食していると言つていた。この土地は早くから島津藩の一部であり、鹿児島県の一郡であり、教師たちは鹿児島師範の出身者である。その過剰の人口の大部分は日本に渡航して生活していた。今日島内二十二万に対し島外(日本在住)に十八万の大島々民がいる。ここからは法曹界に人材を派出している。島民の精神生活は完全に日本のであり、彼等の心は北の方にのみ向つていた。ところが今日では、この北への道がふさがれてしまつた。僅な黒糖と大島油では経済的自給はでき

ない。その上、ここでは歩きたくとも仕事はなく、官吏や教師なども薄給に喘いでいる。沖縄では教員の給与ベースが三千七百円(沖縄軍票一円は日本の三円に当る)になつたと言うのに、大島では何とかして二千円にこぎつけようとして猛運動をしていた。尙今日琉球には四つの独立政府があつて、統一政府は未だ確立していない。そのため、教員の給与も各島まちまちである。物価は決して安くはない。日本の商品が大部分であるが、勿論日本におけるよりも高価である。この経済的苦境のために学校では五日制が採用されている。それは五日制の方が教育に好ましいとの結論からではなく、土日二日他の仕事で働かねば食つていけない状である。島で喰へない若者たちは沖縄へと流れしていくが、ここでも人口は過剰でよい仕事が待つてゐるわけでは

ない。自然下積の仕事にまわされる。沖縄のパンパンの大部分は大島出身の女であり、犯罪者の中にも大島出身者が高率であると新聞でたたかれていた。この状態を見れば大島の真剣な日本復帰の要求が理解されるであろう。精神問題と経済問題の双方から、大島は日本帰属以外に生きる道はないのである。まことに余りにもいたましい。その民謡を聞いても、哀調を帯びてをり、しかも八重山のような優美さはなく、激しい調子であつて、男性の悲痛なうめきを想はせる。

沖縄群島に行くと、流石に島地が大きくなり、経済力もあり、文化的にも異質的な独特的の琉球文化を持つてゐるし、又ここでは巨大な軍作業の恩恵(?)を受けているので相当のドルを持つてゐるものも多く、又直接軍との接触が大きいから、経済的には日本に帰属した方が有利であるかどうかと判断のでききない者もいたりする。貧乏な日本につくよりも、アメリカの世話をなつた

方が沖縄のために幸福であるうなどと考える者もいた。しかし之は余りに物質的の方の考え方で血のつながり、精神の問題を忘れたことであることを、私は沖縄に渡つてから強く実感した。この地でも七割余の人々が日本帰属に署名している。しかし残りの三割の人々の心を吾々は考へねばならないである。島津は琉球に何をなしたか、沖縄県になつてから日本はどうだけの施策を行つたかが今日厳しく批判されてゐる。そこでアメリカに属したいといふよりも琉球王国の復活を夢見る老年たちもあつたりする。臨時中央政府の比嘉主席はアメリカに渡つて、「沖縄人の大部分は信託統治を認めていが、できるだけ早く日本に復帰したい」とあいまいな外交辞令を使つた。そこでこれに対し、A新聞は「沖縄は信託統治を認める」との見出しの下に、この記事を掲げB新聞は「沖縄は日本帰属を望んでいる」との見出の下に同一記事を掲げて論争をしていた。しかし島

民の大部分特に青年層と教員群は熱心に日本帰属を主張している。又軍作業従事者もアメリカ人やフィリッピン人に比して給与が余りに劣るために心よく思つてない。(島民は前者の十分の一、後者の五、六分の一の給与しか受けない。時間給であるが、下級作業者は一ヶ月約三千円位の收入)

しかしながら注意しなければならない点は、日本への帰属を切望し、日本への郷愁を強く懷いてゐる人々は、今までの生活原理で日本人として教育され軍の指導下に自決した、あの精神を慕つてゐるのである。自分たちが凡てを捧げたあの日本から切り離されたくなとの願いなのである。ここでは日本の郷土愛、愛国心が純粹に持ちづけられている。之に対して今日の日本はこの人々の期待に添い得るであろうか。彼の地の教師は日本の教育について、飢えかわいた者のように吸收しようと/or> してゐる。しかも最近はるばる日本に視察に來た或教師は、日本の新教

育の技術は進歩しているが、その精神には失望したと嘆じられていた。こうなると帰属問題は沖縄の問題だけではなく、日本自身の問題である。沖縄への主張をする前に自ら反省する必要がある。

教育問題

沖縄県は戦前は教育県として名をなし、東京府の教員の中、他府県から奉職している者の中では第四位を占めている。この地の有為の青年は師範学校に進学し、教師の中から、今日沖縄の政治界、実業界の有力者となつてゐる者も多い。又一般の父兄も子弟の教育には熱心であり、家庭に余裕があつてというよりも、田畠を賣つても子弟の教育をするという傾向があつた。この傾向は今日も尙同様で、高校生の大進学率も高い。

ところがこの沖縄の教育は戦争によつて物的に破壊され、教育内容に至つては五里霧中のうちに彷徨していた。今

日尙天幕張の校舎や、かやぶきの堀立小屋の学校が那覇市のまん中にすらある。従つて今日の教育問題の第一は校舎問題とされておる。（その復興のためにには軍政府から非常な援助を受けている）校舎がこんな調子であるから設備や教具などは皆無と言つてもよい。教科書は日本の教科書が数年前から生徒に貸与されるという形で使用されてゐる。

教育の指導原理に関してはアメリカからの強い指導は余り気がつかなかつた。初めの頃は日本をおう歌する教材を使用してはならないと言われたが今日では日本の新教科書はそのまま採用することが許され、日本の指導要領に従つて授業されている。教育制度は六三制が採用され、凡て日本の方式にならつて行われている。しかも各群島政府によつてそれ／＼若干相違し、沖縄群島では小学校で英語を教授しているが、八重山群島ではその必要なしと民政本部から指示されている。或は八

重山では高等学校は男女共学であるが、宮古群島では女子高等学校が現存している。このように教育政策に関してはアメリカ側は余り強い指導や干渉は行わず、むしろ放任と言うか、島民に大幅の自治を許している感がある。このために沖縄の教育界は日本側の指導を渴望してをり、日本の情勢を知らうと必死になつてゐる。大島では教員を日本に密航させて日本の新教育を学んだものもあると言われ、八重山群島では石垣島の測候師が終戦後も日本の管理下にあつたために、ここに来る日本船に通じて、日本の書籍や教育雑誌入手していたとも聞いた。したがつて現在では八重山群島が一番教育が復興し、新教育の方式を早く採用している。例えば生徒指導要録を三年前から採用しているが、沖縄群島では今年からやつと採用する様になつた。一般に日本の図書が入手出来るようになつたのは一年來のことと、それ以前は全然日本の様子が判らず、それだけに、

自分たちの立遅れることに對し激しい焦燥が感じられていた。こういう訳で私は終戦後最初に渡航した指導者であると言うので非常に期待と心から歓迎を受けた。殊に通訳を通さないで聞ける話ということが先づ何よりも心から歓迎され、又講師と聴衆との間に初めて心からの共感を感じることが出来たとも言われた。後で土地の先生から教えられた事であるが、アメリカの講師が話す場合には聴衆は煙草をふかし乍ら聞く習慣があつたが、私の講習の間は煙草をふかす者がなく、非常な緊張と感激を以て日本の指導者の話に聴きいつたとも言つていた。

私は先づ琉球大学の講堂で、予め選抜された約五百名の教員に五日間教育評価の話をしたが、この技術的な問題について熱心に聞き、聴衆は後になる程増加した程であつた。私への初めの注文は教育評価であつたができるだけ脱線して沖縄の教育の問題を心理的に考察して話したが、私の期待以上に大

きな影響を与えて恐縮している。之はまさに最初の来島講師であつたためであり、彼地の教員諸君が日本の指導を待望している反映でもある。

沖縄の学生たちも日本への留学を心から望んでいる。今日米国にも日本にも留学できる途が少し開けているが、彼等はアメリカよりも日本に行きたいと言つてゐる。アメリカへ一年行くより、日本に数年学んで知識や技術を身につければものにならないと考えている。沖縄ではアメリカ帰りよりも日本帰りの方が幅がきくとも言われてゐる。或八重山の高校生たちは自費留学でよいから日本への進学の門戸を拓いてくれと切望した。しかし日本に渡航するには日本の大学の入学許可証明が必要であるから、沖縄で試験をしてくれない限り進学の路は無いのである。この点を解決することは以下の要望である。

先年のクリスマスに沖縄の小学生たちはアメリカから沢山の菓子をもたら

大喜びであつたが、その感想文に、こんなおいしいお菓子を沢山もらつて大変嬉しかつたが、「しかしがれが日本からのお菓子だつたらな」と、附言した子があつたといふ。子供たちにまで、こんなに日本を慕ふ切ない願いがあるのである。

読者はこれで沖縄の教育の方向は理解されたことと思う。しかし極幼少な子供は今後どう伸びるであろうか。宮

(四八頁より)

水と一緒に空気を入れないことがコツ。水も袋一杯に入れないと。氷は細かく砕いた方が病人には楽である。

枕は布でくるみ、ゴムが直接に触れない様に。口金は返す返すよくみておかないと、蒲団をぬらしてしまう。

(f)

ゆたんぽ

容器に入れたまゝわかすときは、必ず栓をとつておく。必ず体から三尺は離して入れ、火傷させぬ様に。勿論栓には慎重な注意がいる。

古の小学校で夏休の製作品を見たが、皆仲々よいものを作り、特に教材に直ぐ使用出来る程の地図や社会科の掛図には感心したが、その中で小学一年生の作品中に粘土製の立派な船があつた。ところがその船につけられた旗は星条旗であつた。信託統治が長引けば次々代の沖縄人の考え方は今日とは違ひにちがつて来るだろうことも併せ考えねばならないことであろう。

(g) 懐ろ

火傷をさせぬ注意。

(h)

吸入

蒸氣の出る穴がつまつていしないか、よくしらべてから組立てる。蒸氣が出て来ると、最初に熱い湯玉が飛び出すから、患者の顔からそむけておき、安全になつてからあてがう。

ふとんがしめらぬ様、油紙とタオルを充分に用いる。

あとに顔の荒れを招かぬ様に、クリームを塗つておく。

(以下次號)

たのしいおしごと帖について

お茶の水女子大学
幼稚園主事 及川ふみ

幼児の製作の材料として粘土、紙、木の自然物、など今一般に用いられているもの多くは、いづれもその始めは幼児たちの自然の遊びの間に、いく度か面白く繰りかえされ、楽しく使われたものである。私共大人はこれによつて教えられるところが多かつたのである。

粘土などについて考へても、幼児の戸外遊びの間に土や泥、小石や砂など、よろこんでもあそぶところより、この遊びを充分に満すために砂場として家庭や幼稚園、保育園などに用意されたものである。砂場の遊びがさらに進んで製作的意図を多くふくめられたものが粘土とし

幼児たちによつてえらび出されたこの意図を多くふくめられたものが粘土として、その製作の本来の目標を達する様にするかが考えられなくてはならないと思われる。

よき製作の材料を如何に幼児たちに指導して、その製作の本来の目標を達する様にするかが考えられなくてはならないと思われる。

紙仕事の指導の一つのあり方について考えて見ると、幼児たちは四五才位になるとさきにもいつた如く、紙や鉛筆、クレオン、鉄とこれ等をもつて遊ぶことに興味が出て様様のものを作りはじめるが、はじめの間は多くの場合ほとんど平面的なものが多い。草花や樹木、人物や家、或は動物や乗物などと題材は相当に広い範囲にわたるが、それ等を書き、色をぬり、きりぬく程度で終ることが多いなどをむしつたり、或は紙の上に、クレオンや鉛筆で絵をかいて遊んだり、或は

折つたり、たたんだり、さらに進んでは、画いたものを切りぬいて遊ぶことに興味のあるところから、大人たちが製作のよき材料としての自信がもたれたとも云え得ばならないのではないか。

自分たちだけで作った草花が花かごにさされるよろこびをもたせる為に簡易な

かごの製作を指導したり、かきばなし、切りばなしの樹木の根元に副本をして立てさせることを指導したり、或は動物などの形を紙を二つ折にして書きそれを切りぬいて、立体的な感じを表現することを誘導することなど、幼児と一緒に紙をいぢり鉛をもち糊をもつ間に様様のよき機会のあることを見のがしてはならない。

ここにほんとの意味の製作指導の要があるのではないかろうか。幼児だけの単純な創作を基本として、それに誘導と指導のあるものが加えられ、より具体的な、より立体的な表現に進み、幼児たちの求めてあたわないのであるものを補つてそのよろこびを満足させなくてはならない。これがひいてはほんとの意味での創作への指導

のいとぐちともなるのであつて、自分で工夫する機会を作ることにもなるのであろう。「たのしい おしごと」はこの意味から試みられた紙仕事の指導の一つのゆき方である。幼児一人一人の能力に応じた表現を、充分に満すとともに、こ

れに多少の大人の助けを加えて、幼児たちの求めるおもちゃを作るという、幼児と大人との共同製作である。しかもこの形を紙を二つ折にして画きそれを切りぬけるだけ簡単なものを材料としてえらぶことにめやすをおいて作られた。もとより幼児一人一人の活動する部分の多いことはいうまでもない。ここにほんとの意味の製作指導の要があるのではない。在一般的の幼稚園や保育所で一人の指導者に対しても多数の幼児を受持たれる実情からもこの点も合せ考えたからである。このたのしいおしごとの材料は主として一年保育の幼児たちを対象として試みたもので、ここ数年の間に幼児とともに作つて、楽しんだものの中から撰んだ十数種のものである。

このおしごと帖が実ともに幼児たちのたのしいものとして使われる様に、そぞんでもいる。このたのしいおしごとはこの材料の取扱い方に工夫があつてほしいと望まれると同時に、たりないところなど適宜に取捨されて試みられることをのぞんでいる。尚順序などについても一応は考えて配べたものであるが適当に前後され、或は別の紙によつて幾度か繰りかえされて使われることも考えてもらいたい。

子供讚歌（一六）

倉

橋

惣

三

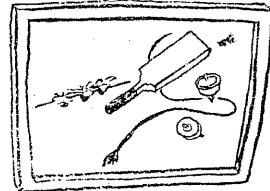
一五 大戦と幼兒

1 地獄の樂園

空から火薙が飛んで来る。爆焰は人畜を焼き爛らす。こうした、なまくしい焦熱地獄の中で、おとな達が、或は怒り鬭い、或は怖れ逃げまわつてゐる間にも、幼い子らは必ずその貴重な幸福を、楽しい遊びの場と正しい導きによつて誰れかに保証されなくてはならぬ。それこそ、自分の生命を護るに次いでのおとなとの責任である。責任など考へる前に至情である。この至情は常にあつては、あたりまえであり、非常時においては必須の努力である。

彼は、若い日、コメニユウスの伝を読んで、此の教育者が、慌しい戦乱の間に、寸地寸刻を惜んで、民族移動の森蔭や谷間に子供らを集めて、その教育に努力した話に感激したことがある。そうして、その己み難い兒童愛の実行こそが、大著デグリチカマグナの教育原理以上に、此の教育者えの彼の尊敬を深からしめてゐる。『この非常時に幼児のことなんか』といつた風の声が耳に聞えてくるたびに、コメニユウスもそうした無理解者の声に如何に多く妨げられたことだろうと、更めて思いやつたりした。

どこの役所からだつたか、幼稚園休園令が出た。通園途上の不安もある場合、一応の心づかいである。彼の幼稚園でも、遠い通園者にはこの令が出る以前から隨意休園を勧めた。しかし幼稚園は非常時的でないから、戰時保育所と名をかえると、いうおふれは、彼の理解し難いことであつた。保育所という看板ならゝゝが、幼稚園ではいけないと



う考え方方が、納得できなかつた。殊に、近くの子らのためには、建て込んだ町家よりは、広い園庭をもつ幼稚園の方が安全であつた。登園児の数の少なくなるにつれて、幼児達の一人々々を見るおとなの方は、それこそ非常時の忙しい母よりはゆき届いていた。それでも、幼稚園に頂けておくのが心配な家庭は休ませるがいゝ。が、現に幼児らは戦争をよそに楽しく遊んでいる。運動具がある。おもちゃがある。友達の笑声がある。先生方の笑顔がある。砂場に近い小山の下には防空壕が壠つてある。遊戯の時で避難演習の一齊行動も演習してある。幼児達の間では、ゆうべの警報の噂について、わざとおびえあうような地獄童話も行われるが、それだから、先生はつとめて樂園童話で、小さい不戦闘員の可憐な魂から、地獄のおびえを除くことにつとめる。——彼は巻脚絆に鉄かぶとの身ごしらえ。先生方はモンペに防空頭布のいだたちを守り、バケツには水を張り、砂を盛り室毎に火たゝきを立てると共に、三角巾入りの菓かばんを備えることを忘れず、幾日分かの貯減食糧を積み重ねて、身を以て幼児を護る覚悟をしながらも、幼児らには、非常時だからこそ當時以上のなごやかな楽しい幼稚園を与えることにつとめる。

兎に角く、しまいままで幼稚園の名をかえなかつたことは、彼のひとりで喜んでいるところであつた。その間、主事としては文部省に幾度か足を運ばなければならなかつたが。

さて、原子爆弾の今日、あんなことをと笑止になる点もあるが、無戦争の他に、幼児を絶対に護る途はありそうもない。

2 敗戦後の御近所幼稚園

振りかえつて思えば、その頃、戦争は実はもう敗戦に極つていたのであつた。幼稚園の建物も、より大切な官庁の事務のために占領されるに至つた。これが彼の被占領（内輪ごとではあるが）を経験した初めであつた。そうして、遂に國そのものが占領せられるに至つたとき、幼稚園は国内的に荒されたまゝ、戦勝者によつて子供のものとして許された。

が肝心の幼児等は離散してしまつて、開園の通知の出しようもない。彼等の多くは、東京の外にそかいしたまゝである。その中には、幼稚園の罹災しないことを伝え聞いて、子供が早く帰りたがつてゐるといふたよりを寄せるものも少くはなかつた。彼と先生達は、彼等戦争欠席児の無事を喜ぶと共に、その帰園を待つた。

しかし、この幼稚園に一日も早く提供せられなければならぬ幼児は近所の焼けあとに沢山居た。彼は平時の幼児募集とは別な臨時『御近所幼稚園』の案内広告を門に出した。同時に、近所の町会事務所を訪りて、遊び場のない近所の幼児達の来園方を勧説した。又、先生方は炎天下を手分けして、幼児のあるバラックに誘いに出来かけたりした。そうして、次第に裸足や半裸体（折から夏であつたし）の子供の群が、戦前のお茶の水幼稚園とは違つた新形相を示した。お茶の水幼稚園は、決して上流階級の幼稚園ではなかつた。又優良幼児の幼稚園ではなかつた。たゞ保育上の理想から定員を限定するのと、全般的に入園希望者が多いのとで、入園を選択しなければならないとの、それに志願者の方のいくらかの伝統も手伝つて、自然インテリ両親の子が多く、家庭の生活も競争も文化的に整つてゐるのが多いのを免れなかつた。そこに何んとなく庶民的（？）でない風もあつたことは、彼の幼稚園に対する社会想念に、多少一沫の不足を感じしめるところが無いではなかつた。しかしこれは、幼稚園として必ずしも強いて変革をしなければならないことでもなかつたので、いゝ家のいゝ子にのみ、その保育理念を基礎づけるようなことのないよう、先生方とも互に相戒めていただけであつた。そうして、文化的有閑家庭に對してよりは、より切迫した保育の必要を日々に実感させられような幼稚園の経営を求めていたのであつた。それを戦後、直に彼の着手した此の『御近所幼稚園』において、図らずも実現し得たのである。露骨にいつて、これらの顔のよぞれたまゝの幼児、服装に意の用いられていない幼児、家庭的駢けのゆき届かない幼児、言語動作も、お行儀の悪い幼児達に、幼稚園といふもの社会的法悦（？）を彼と先生方とで満喫したのである。或る若い先生の淑女性は、新來の年少兒にオイネエチヤンと呼ばれてびっくりした。腕白の年長兒の小山の上でのシャー／＼には、彼の紳士性が驚かされた。が、それらは、幼児としての本質に大してマイナスするものではなかつた。それが幼児の天真的プラスだともいえないが、その子らは、たゞ平生の通り幼稚園でも行動しただけなのである。幼児の生活こそ訓化以前（Pre-training）の無垢だとすれば、そういうことに予め磨きをかけられていることが、幼稚園に入る資格という訳であるまい。託児所を知り、保育所を知り、農村幼児を知り、漁村幼児を知り、都會のスマムの幼児達を知つてゐる彼としては少しも異としなかつた。けれども、文化的理想の子をのみ相手にし来つた、幼稚園教諭先生達にとつては、如何に貴重の経験であつたことだらう。歌舞すべき子供は、絵にかいたり、人形として愛される子供えの礼讀ばかりではない。

殊に此の『御近所幼稚園』が、彼及び先生方に与えた消し難い印象は、結び髪のふだん着で愛児を迎えて来た母達

の純撲と謙虚と、愛児の先生に対する心からの感謝である。彼は之れ等の暮しに忙しい母達を集めて母の講話会を開催するほど心なしではなかつたが、往来の店さきや、時々通つてゐる露路裏でのゆきすりの挨拶や、幼児を中にあいての立話に、どれもこれも、いゝ母親を感じて、如何に心から親しんだことか。

先生方は不便な交通機関に難渋しながら、毎日彼等と嬉々として遊んだ。そうして、保育としては足りないづくめであつたけれども、空襲のおびえと戦火の恐怖と生活物資の欠乏とに干燥しきつてゐる少い魂のためにオアシスとなることを専ら心がけた。彼はあの時の幼児達と同僚諸先生とを、保育者としての生涯中の最も忘れ難い記憶にとどめて貴重するであろう。

幼児の健康保育（十四）

お茶の水女子大学助教授
愛育研究所員 平井信義

十二 幼児の救急処置法と看護法

今回は、母の講座として、子供を襲う災害及びかんたんな急救処置法と看護法のお話をしましよう。幼稚園、保育所でも勿論必要な知識です。

一 子供を襲う災害

子供に不慮の災害が多いことは、我が国でも他の国でも余り変わりません。毎年沢山の子供が死んでいく、——本当に一瞬にして生命を奪われるものですから、こんなに悲しい情なことはありません。自動車にひかれた、用水池に落ち込んだ、やけどをした。骨を折つた、犬にかまれた……、不慮の災害は、大小様々で子供たちに襲いかります。一才も五才の幼児は、我

が国では年に約七千人も死に、幼児の死亡原因の第五位を占めている程です。最も多いのは、溺

が交通事故。之ら二

1. 溺死	3560
2. 死傷	1535
3. 中毒	830
4. 落車	438
5. 中動	290
6. 車	179
7. 街道	173
8. 熱中症	145
9. 電気	115
10. 急性	111
11. 道路	94
12. その他	1226

つを合せると約四千人となり事故による死亡の五分の三に当ります。アメリカでも同様です。

家庭内で起る大きな事故の中、最も多いのは、何といつても火傷です。一年千五百人前後の乳幼児が死ぬとは誠に傷ましい。死亡に到らぬが、不具、醜形を身につける子供たちは、死亡の数十倍に及ぶと推定されています。子供自身、災害を予防する力はありません。こうした災害

はすべて大人の不注意から起きるものです。全くつまらないどうぞ呉々も注意に注意を重ねて下さい。一人でもこの不幸を少くしたいのです。

家庭内で起る小さな事故は、切傷、刺傷、かすり傷、爪はがし——などから、打撲傷、血腫、突指、その他、捻挫、骨折などでありましよう。実際、元気な子供は生ま傷が絶えないとほどで、泥まみれになつて帰つて来た子供は風呂に入れてみると、膝に手に、或いは横腹にまで、全身これ傷という状況でびっくりさせられることができます。

二 救急処置

(a) 刺傷、切傷など

之には消毒といふことが大切です。ふつうの皮ふはばい菌に対しても抵抗が強いが、傷ついた場所は弱い、そこで傷の面に消毒薬を塗つて、ばい菌のついていない布か、消毒薬をつけた布で被つておくのです。その際に綿を使うのはいけません。癒りかけた組織（主にかさぶた）と綿とがからみ合つて、綿を取るときにかさぶたをはぎ取ることが多いからであります。

(c) 捻挫性、脱臼、骨折

消毒薬はマーキロチンク・オキシフル・沃度丁幾、何でも結構です。但し沃度丁幾は非常にしみますから、子供には可哀そうです。傷口が小さくて奥の深い傷はうみ易いから注意をしましょります。

う。そんなときは消毒した針や小刀で傷口をひらくしておこう。とよいのですが、もしものことがあるといけないから、医者にみてもらつた方が安全です。

とげの入つている傷、——之は必ずとげを抜いて、口をひろげ、消毒薬をつけておく必要があります。

(b) 打撲傷、血腫

あざ、こぶの類です。之は打つた為の皮ふの傷はないが、中で血管が切れて組織の中へ血液があふれ出たものです。血液を早く吸収されればよいのですから、湿布は硼酸でも、メント水でも、何でも結構です。冷湿布でよいでしょう。おでこのこぶは一日位後に、まぶたの方に下つて来て目が張ればつたくなりますが、之は全く心配りりません。但し打つた場所がすぐあざになる子供は血液の病気がありますからすぐに検査をしてもらわぬと危険です。

近頃は幼稚園、保育所の子供までが野球をする様になり、突き指も多くなりました。之も湿布をして安静に保つことです。

早く入れてもらうことです。

脱臼、骨折も、その場所を出来るだけ動かせない様にして医者を訪うことです。動かさない様にするには、支えが必要です。戦争中はどこに家でも木を用意していましたが、ある様なもの、枝でも板でもよいから、その場所につけ、繩帶で動かない様にしばる。骨折の際、上下二つの関節が動かぬ様にしばることが大切です。子供は痛がつて泣き、親も心が乱れるのですが、腹によく力を入れて、決して騒ぐことなく、早く医者につれていくことです。

(d) 火傷

熱湯をひっくり返した、——幼児期の子供は活動がさかんですから、この事件が非常に多い、殊に冬に向う頃が非常に多いのです。程度がひどいと一生痕がとれませんから、是非注意したいものです。よくよく注意していても、犯し易い過ちです。

お湯のかゝった場所に衣服がついていたら、すぐに切り開く。殊に中の皮ふをこすつたり、水疱をつぶし取ることのない様に注意したい。傷を出したらすぐに油を塗ります。アメリカの薬ですが、タンニン酸の入った軟膏があります。之は非常に効果があります。日本でも当然出来てよいと思います。

水疱があれば、皮ふを傷つけぬ様に中から水を出しておき

ます。すべてばい菌がつかぬ様によく消毒したもの、消毒した手を用いなければならぬのは当然です。ばい菌がつくとそれこそみじめです。

私の経験した火傷の場面を参考までに並べてみましょう。廊下の曲り角で、走つて来た子供と茶罐を持った大人の人とがぶつかつて、顔から熱湯を浴びた。ストーブの側で遊んでいて、上にのつかつていた薬罐を揃でひっくり返し、そにばいた弟にひつかけてしまつた。大きな洗面器に入れた熱湯を床において一寸よそ見をしているときに、あとすきりした子供がすっぽり洗面器に腰を入れてしまつた。

(e) 田舎では決つていろいろとみそ汁。

田舎では決つていろいろとみそ汁。
（f）墜落

もの干し台から落ちた。二階の手すりから落ちた、——この種の事件も相当多いものです。事件の割に比較的大きな傷が少い。先日も一階から落ちた子供ですが、下の狭い溝にすつぱりはまつて、どこにも怪我がありませんでした。一二、三寸ちがつて落ちても、コンクリートの角にぶつかるのでしたが。

こんな事件のとき、大騒ぎをして病院に運ばれて来ますし、本人も泣いていますが、子供は騒ぎが大きくてびっくりして泣いていることもあるのです。

脳振盪をおこしていれば、もち論安静が第一です。動かさ

ぬことです。意識はなく大小便はたれ流しにいるでしよう。

いろいろ看護に細かな注意がいりますから、医者の指図によく従いましょう。意識を取り戻すことが早い程、癒りはよいでしょう。

その他頭蓋底骨折といつて、大切なせきすいや脳神経の出ている部分の骨折があると、全く助かりません。勿論意識はないが、吐いたり、耳や鼻などから出血いたします。

内臓に傷が出来ることがあります。その為に腹膜炎を起しだりすることがあります、事件があつてから六、七時間経過して腹がはるとかいたむとか何ともなれば心配はいらないでしよう。但し尿の検査で一応確かめておくことが大切です。尿の中に血液がなければよいのです。

(f) 交通による災害

一番多いのが、道路の横断です。道路上での遊戯を禁ずることは勿論ですが、遊び場のない今日、他によい場所を与えることを、政治の力で実行して欲しいと思います。東京などでは子供遊園地が出来ました。小さな子供がそこに集まつて遊んでいるのは、本当にうれしいことです。——伝染病さえ注意してもらえば……

又、近くに横断しなければならぬ道路のあるところでは、訓練をすることも大切です。お父さん、お母さん、どなたでもよいから、一緒に右を見、左を見、横断する様に、それを度々練習しておきましょう。

(g) 溺死

之も平生からの訓練です。どこへいくにもお母さんの許可を得ていく様にしてあれば、安全です。それは然し、たゞがみがみと「お母さんに言いなさいよ」ということではあります。がみがみと言うお母さんには、却つて子供はこつそり黙つて出かけてしまうものです。普段から、子供の話をよく聞いてやることが大切なのです。

(h) たおれたとき

今まで元気であったものが、急に顔を青くして倒れたときは、脳貧血を考えるべきでしよう。頭を低くして寝かせ、胸や腹をきつくしめているものはほどいて、らくにしてやります。が別に恐ろしい病気ではありません。医者の指図で暑い飲物、アルコール飲料、をのませたり、強心剤の注射をします。但し日頃から貧血の強い子供は、その原因をたしかめておくことを忘れぬよう。又てんかんには注意していなければなりません。

(i) 鼻血の出たとき

子供を静かに寝かせ、特に頭を幾分高くする様にして、きれいな綿を小指の先端に丸めて、鼻の孔に深く入れる。そして鼻の上には氷嚢ヒヤクをあてがうとよいでしょう。

習慣性に鼻血を出す子供があります。そんなときは、椅子

に子供を坐らせて、小鼻から鼻の中隔に向けて指で強く圧迫させるのも一つの方法でしょう。

家がむしむししていたら、窓を開きましょう。

(j) 耳に異物が入つたとき

小さな豆、鉗、虫などを耳に入れることがあります。豆などをピンセットで取出そうとすれば、それは非常に危険です。奥へはじいて鼓膜を破く恐れがあるからです。先の曲つたものでそつとかき出す様にするのですが、取りにくいときは、必ず医者に頼みましよう。

虫が入つたときは、入つた方の耳の穴を、太陽又は電燈にむけるがよい。大抵ははい出します。

(k) のどにものがつかえたとき

のみ込んだ異物(例えば玩具とかメタル・豆など)がのどにつかえたときは、前屈みにして、背中を平手で打つてみます。或いは鼻の中にかんじよりを入れてくさみをさせてみます。

小骨とか釘の類であれば、外から見えるのはピンセットではさみ取りますが、見えぬときは握り飯や芋類をのみ込みます。之は子供ではなかなかむずかしく、取り難ければ早く医者にいくことです。耳鼻科です。

異物が気管に落ち込んだら大変です。生命にかゝわります。その時ははげしい咳が出ます。咳のあとけりりとしてい

ても必ず見てもらうことがよいでしょう。

(l) 目にものが入つたとき

決してこすることのない様に、すぐ目ぶたをひつ繰り返して、ごみをきれいな布でふき取ります。そしてあとえペニシリンの入つた点眼薬をたらしておけば安全でしよう。

(m) どこか痛みを訴えたとき

どこかの痛みでも、原因をしらべること、殊に内臓の痛みは医者でも鑑別がむずかしいから、決してしろうと判断をしないで、医者を訪い、いろいろの検査をしてもらいましょう。

(n) 熱の出たとき

何となくからだが熱い、ひたひに手を当てたらあつい、一たゞそれだけの言い方をするお母さんがあるが、之をきいても医者は正しい判断をすることは出来ません。必ず体温計を用いて測定しましょう。

熱の高さは、病氣の重さと必ずしも一致しません。高いからといってあわてずに、その熱がどこから出ているか、医者が原因をさがし易い様に協力したい。従つて、むやみに解熱剤を使うのはいけない。熱の型でわかる病氣も、その型を乱してしまうおそれがある。又、むりに熱を下げてみても、もとの病氣はなおりません。

静かに寝かせ、三十八度以上なら、水枕又は冰枕をしてやり、うるさくない様であつたら、冰嚢をあてがいます。

(o) 便の異常について

便の様子は、病気を表現するから、よくその性質を見て、医者に知らせること。便の色、固さ、粘液、顆粒、におい、その他についてよく観察しておきましょう。最新の便は保存して医者に見せるのは最も手早いことです。

(p) 尿の異常について

赤味が強かつたり、回数が多くつたり少かつたりすることで、気のつくことが多い。必ず尿の検査を受けなくてはなりません。清潔な無色のコップに直接取るのがよいでしょう。

(q) 吐き気について

吐くということは、胃腸の病氣によつても起るが、その他脳や脳膜に変化のあるときにも、腹膜に炎症のあるときにも起り、重い病氣の表現であることが多い。食事と関係するかどうか、吐く他に吐き氣があるかどうか、……

吐き氣を催したときは、胃の中のものが出来やすい様な格好に病人の体を助けてやります。そして背中をたゝくなり下から上え逆にさすると、はく力を助けるばかりでなく、慰めになります。吐いたものは必ず保存して医者に見せましょう。

三、看護の仕方

必要な器具と薬品

(器具) 検温器。洗腸器。冰枕と水枕。湯たんぽ。懷炉。吸入器。胸温布帶。吸飲み。ピンセツト。鉄。薬匙。コップ。

綿棒。尿器と便器。

(薬品) グリセリン、沃丁。マーキロチンキ。酒精。ヒマシ油。ワゼリン。硼酸軟膏。ピック膏。硼酸。重曹。

(その他) 脱脂綿。リント。絆創膏。油紙。綿帶。ガーゼ。

次に要点だけ述べましょう。

(a) 体温の測定

卅五度以下に下げ、水銀玉が腋の下の真中に当たるようにはさみ、すり落ちぬ様におさえ、五分以上測る。
一日三回、その他最高又は最低時

(b) 脈搏数の測定

手首で、人差指、中指、薬指の三本を動脈に沿つておき、二〇秒測つて三倍するか、三十秒はかつて二倍する。

(c) 呼吸数の測定

脈搏をはかりながら、胸を見てみるとその上下でわかる。早いときは、鼻の下に羽毛や鏡をあてがつてはかる。

(d) 洗腸の仕方

洗腸器の先にワゼリンを塗り、肛門を傷付けぬ様に注入する。その際、腹圧が加わらぬ様に、口をあけさせる。
薬液はゆつくり注入して、後静かに洗腸器を抜き、脱脂綿で肛門を压え、二三回之を繰返して必要量を入れる。後肛門をおさえたまゝ静かにねかせ十分程がまんさせる。

(e) 冰枕・冰囊

(以下三六頁餘白へ)

幼児の教育

第五〇卷總目錄

第一號

本誌が第五〇巻に入るに当つて

日本幼稚園協会

吉田昇治
多野完治
波多野鉄雄
橋惣三雄

幼児の性格教育

第二號

アメリカ童話から(八) 松原至大
よき幼稚園(一)
幼稚園の現況について

玉越三朗
及川ふみ
倉橋惣三
新し幼稚園の四月

第三號

アメリカ童話から(七) 松原至大
よき幼稚園(二)
幼稚園のリズム指導

羽根さんと風さんの話
幼児生活の記録についての研究
お茶の水女子大学幼稚園

アメリカ童話から(六) 松原至大
よき幼稚園(一)
幼稚園の歌
幼稚園のP・T・A
カリキユラムはこうしてつくられる(一)

幼稚園の三月
幼児に於る描画の発達
よき幼稚園(三)
幼稚園の歌
幼稚園のP・T・A
カリキユラムはこうしてつくられる(二)

幼稚園の国際教育「八にんの子ども」
幼稚園保育所の先生を語る
秋田美子
山村きよよ
山倉橋惣三

第四號

アメリカ童話から(九) 松原至大
幼児の健康保育(九)
幼稚園教員臨時養成所入學募集要項

御茶の水女子大学

玉越三朗
及川ふみ
倉橋惣三
新し幼稚園の四月

芽を愛する人
カリキユラムはこうしてつくられる(三)
幼稚園における指導要録について

第五號

アメリカ童話から(十) 松原至大
私の記録から(一)
都市幼稚園の保育の実際

東京都港区立西桜幼稚園

玉越三朗
及川ふみ
倉橋惣三
新し幼稚園の四月

アメリカ童話から(十一) 松原至大
私の記録から(二)
都市幼稚園の保育の実際

アメリカ童話から(十二) 松原至大
私の記録から(三)
都市幼稚園の保育の実際

アメリカ童話から(十三) 松原至大
私の記録から(四)
都市幼稚園の保育の実際

第六號

フレーベル百年記念特集号

フレーベル年譜

日本に於けるフレーベル研究を觀る
フレーベル百年記念特集号に序して

フレーベル教育学の根本問題

長田新、倉橋惣三

フレーベル幼児教育論

莊司雅子

アメリカに於けるフレーベル運動

水野浩志

フレーベルの生涯

津守真

フレーベル百年記念講演会予告

第七號

皇太后陛下の御崩御を悼み奉る

倉橋惣三

児童憲章の悲願

高島巖

児童憲章とその精神

松村康平

児童憲章本文

玉越三朗

フレーベル百年記念講演会予告

森脇要

第九號

特集・日本保育學會第四回大會發表

フレーベル百年記念第二特集号

第十號

フレーベル百年記念第二特集号

フレーベル遺跡巡礼の思い出

平井信義

児童憲章の悲願

児童憲章とその精神

児童憲章本文

幼児期の経験

小学校入学前全幼児保育小園長学第一歩(一)

玉越三朗

保育知識のアチャーヴメントテストについて

森脇要

放送劇「幼稚園の父フレーベル」

寺田太郎

第四回全国保育大会開催要綱

幼児の健康保育(一)平井信義

保育効果の一調査 竹田俊雄

保育医学の諸問題 相深田英一

保育歯科学の必要性を提唱する

深田英一

保育の充実 倉橋惣三

夏の自然観察 堀七藏

幼稚園保導研究協議会記録

(東京淡路幼稚園)

第四回関東保育協議大會記

フレーベル歿後百年を記念する二つの催

おし

アメリカの幼児教育 小川正通

シンボジウム保育施設と家庭及学校

(山下・鈴木・平井・武田)

フレーベルの生涯 寺田豊子

フレーベル百年記念特集号

フレーベル遺跡巡礼の思い出

倉橋惣三

新しいフレーベル発見 海後宗臣

フレーベルと現代教育の理念

石山脩平

寺田太郎

放送劇・幼稚園の父フレーベル聽観記

日本保育学会記事

九

園長学第一歩(一) 倉 橋 惣 三
私の記録から(一) 玉 越 三 朗

堀 合 文 子 幼児の健康保育(一) 平 井 信 義

第十一號

独立心と世界心の教育(一) 倉 橋 惣 三

数から見た幼稚教育施設の現状(一) 村 上 米 子

言葉に現われた幼児の情緒の一端(一)

鈴木正子 「婦人とこども」創刊当時のことなど

其の頃の幼稚園の状況について(一)

東 基 吉 アメリカ童話から(一) 松 原 至 大

私の記録から(三) 堀 合 文 子 第五回全国保育大会記(一)

第二回全国公立幼稚園長会(一) 平 井 信 義

第三回全国保育大会記(一) 平 井 信 義

第四回全国保育大会記(一) 平 井 信 義

「幼児の教育」半世紀の辞(一)

倉 橋 惣 三

単位修得のお知らせ(一)

申込先(一)

吹田市片山・旭ヶ丘学園

幼児の教育相談の方法(一)

何を話すか(一) 上沢謙二

アメリカ童話から(一) 松原至大

沖縄の印象(一) 牛島義友

子供讃歌(一) 及川ふみ

幼児の健康保育(一) 平井信義

及川ふみ 幼児の健康保育(一) 平井信義

第一回全国公立幼稚園長協議会(一)

第六回幼稚園小学校研究集会(中国地区)(一)

第二回山静保育研究会(一)

教育指導者講習会(I.E.E.L)(一)

第一次幼稚園教育終了(一)

東京都立幼稚園長会発足(一)

第一回全国国公立幼稚園長会協議会記録(一)

第二回全国国公立幼稚園長会協議会記録(一)

幼稚園の幼児指導要録について(文部省)(一)

会費(一)

連絡事公示

昭和二十六年度文部省科学研究奨励

学校における「文化の日」その他(一)

国民の祝日の行事について(一)

教育職員免許法同施行法の改正(文部省)(一)

交付金について(一)

昭和二十六年度文部省科学研究奨励

日本佛教保育協会(一)

第二回近畿保育講習並協議会(一)

時 十一月二十二・二十三日(協議会は二十二日のみ)(一)

所 大阪市天王寺区上本町八丁目下車

上 宮 学 園 (新館)

講師 内山憲尚先生・森本先生・松濤基

先生・池川市児童課長・小林大学

会から

○本巻を終りあわせて本誌第五十巻を終ります。第五十一巻を迎えることは、編集に新しい緊張を感じさせます。と共に、一層の新しい御好評を頼ります。

○編集の方針、その他についても、充分の御注意なり御勧告なりを願います。保育界全体のものとなるために、先づ全体の御希望に副うものになりたいと心がけています。

おわび

前号本誌四一頁保育大会記事中に個人会員、山村きよ氏と、新選役員、副委員長小川正通氏のお名を失した事を深く両先生と読者におわびします。

はならないこと、しかし、必ずしも容易でない実際問題を懇切に説いていただけます。

是非研究し実行して下さい。

○おいく寒さが増します。先生方の御健康を祈ります。先生方がかぜをひいて休まられるのも困ることですが、こんくせきをされるのも、子どものために心配です。充

分おだいじになさつて下さい。

○よき新年を迎えるように。

『幼児の教育』編集

編集主任
協力委員

倉橋惣三
牛島義友
及川斎藤文ふみ
多田鉄雄
多野完治
下山俊郎
(五十音順)

編集委員
日本幼稚園協会
西山浪太郎

昭和二十六年十二月十五日印刷
昭和二十六年十二月二十日発行

定価 金五拾円
幼児の教育 第十二号
東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉橋惣三
印刷所 凸版印刷株式会社

東京都板橋区志村町五番地

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
發行所 東京都千代田区神田神保町二ノ四
日本幼稚園協会

發行所 株式会社 フレーベル館

電話九段(33)三六七・三九七一

振替 東京一九六四〇番

ます
○本誌御購読について注文申込その他の凡て発売所フレーベル館宛に願い

日本図書館協会推薦 B6 天然色カバ1付
児童福祉審議会推薦 定価 二八〇円
山下俊郎 教東京家政大学

幼児の家庭教育

日本で、幼時の研究では山下先生の右に出る人はちよつとありません。この山下先生が、何と二十年も研究したその成果がこの本なのです。本屋さんで開いてみて下さい。これ以上、やさしく、適切に、しかも具体的に、手にとるように、幼児に関係している方に、お父さんや、お母さん方に説いた本は他にはありません。あなたの方が心配していることが一つ一つなずけて来て、きつと子どもに對する明るい希望が湧いてくると思います。私たち全く自信を以ておすすめ出来ます。

読者の聲にきいて見る

こんなにりづばない内容の本をなぜ私は知らないでいるのでしょうか。若いお母さんで、私の過去のよううに困っていた人には非読んでいただきたいと思うのです。

学校で受けもつ前に知りたいのは家庭の環境です。しかし、ほとんど教育に無関心な家庭が多いのです。この本を読んで下さついたら私は何度も強く思いました。（大阪・三十才・小学校教員・山田辰子）長がたのしみです。この喜びを沢山の人々にかけてやりたいと切に思います。（福岡・三五才・会社員・田四郎）

東京都千代田区飯田町 東洋書館 振替 東京 170363

新發賣

お茶の水女子大戸倉ハル・東京教大小林つや江共著
わらべうたあそび

古来のわらべうたの本を集めて分類し、そのうたい方とあそび方を詳説したもの。

A5 判 四六倍判一八四頁
書留送料 六五〇円
定価二二〇円
一二円

うたとあそび

著者多年の経験と蕴蓄を傾倒し、幼稚園及小学校低学年用の教材の曲八曲をあつめ、春・夏・秋・冬の四季に分類配当します。絶好の保育資料として各地の講習会等に於て譲り受けられています。表紙七色刷・扉等三色刷・美麗製本

東京教育大学教育 中島 海著
遊戲とリレーース

B6 判二四二頁
定価二〇〇円
送料三五円

●遊戯研究及実地指導に不可欠の好著。
・遊戯研究及実地指導に不可欠の好著。
・多年の蕴蓄を傾倒してものした、遊戯に関する理論及び実際指導の權威書。運動会参考資料として好適。

東京教育大学教育 中島 海著

B6 判三三七頁
定価二五〇円
送料三五円

鬼遊びとかけっこ

東京都文京区 大塚仲町二 株式会社 不昧堂書店
電話大塚二七〇三

振替東京六八七三九番

1月号予告

観察

キンダーブック

KINDER-BOOK

第6集

[おおきいな]

繪本

第10編



☆自己創造にたえまない

幼児のために是非与えたい☆

『おおきいな』

……まず大きな日
出が日本中を照らしてい
ます。大国旗が日本の子
供の自分達の手で立てら
れています。

そうして、平和の鳩が

晴れた空に大きく舞つて

います。いざ、光明と独

立と建設と向上と豊満

と、そうして、国際的世

界心と平和の理想の歎喜

とを以て（勿論こんなお

となの言葉は聞かせず

に）わたくしの幼児達の小

さい胸を大きくふくらま
せようではありません

か。

A4判・12頁・月一回発行
はさみ頁・解説付
定価 40円・送料 6円

發行所

東京都千代田区神田
神保町二丁目四番地

株式会社

フレーベル館

振替口座東京
一九六四〇番